

國朝大業廣記

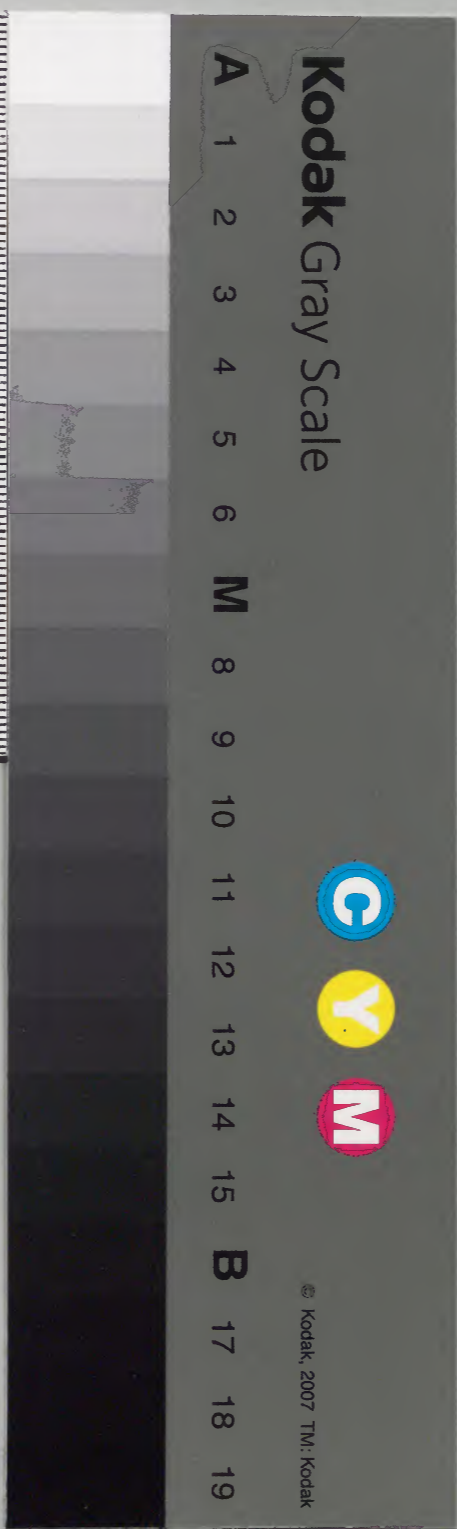
百四十二



內閣文庫	
番號	和 31291
冊數	(63)
函號	171 110

內閣文庫	
和書	類
三三九一號	冊
七一冊	架
四九函	架

百四十二



151
9-2

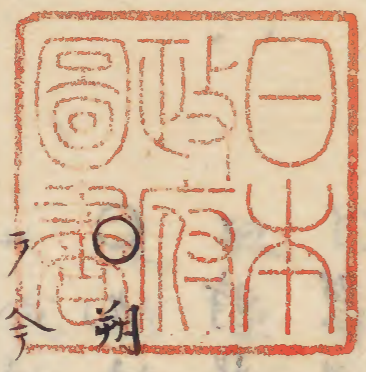


Vertical columns of handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, including various characters and symbols such as circles and squares.

Handwritten signature or mark in the bottom left corner.

Handwritten signature or mark in the bottom right corner.

國朝大業廣記卷之百四十



山名氏藏書

元和元年

九月十日

御陣御供

昨日

補

是日

在府

○七日

所黃金三十枚



○八日 東武日水野監物忠元祭候ノ處
召テ大坂ノ戰場ニテ見崩ノ旗紅朝ノ旗
御尋アリ忠元近日急度入札ヲ成付レシ
ルハキ御沙汰ノ由言上ス

○九日 同上 大樹ノ御名代水野監物忠元ヲ以テ重陽
ノ時服進ラレ伺候セシヲ始諸臣悉ク登營ノ重陽
ノ賀ヲ述ル今晚御教寄屋ハ日野大綱言輝資卿入
道唯心大沢少將基重鳥山長門守美真土波左馬助
頼勝同市正持益三好同幡守一任堀田若狭守重成
堀丹後守直寄市橋下總守長勝猪子内匠即ヲ召テ

尾張義直御火砲ヲ以テ獲テル所ノ白鳥ヲ御料理
アリテ是ヲ賜リ且テ亦志賀ノ壺ノ喫茶ヲ點メ之
ヲ賜ト云ク

○十日 小雨 松平忠左衛門勝隆 後出雲守 越後ヨリ
飯茶シ 御前ニ出テ先日御使トシ越後ニ赴キ今
度越後少將 幕下ノ御家人 長坂 伊丹 西人ヲ理不尽ナ
ル成敗ノ事ニ付向後御不通ノ由告サセラレ以テ
外ニ仰天アリテ忠輝朝臣并元老陳謝ノ據ナキ旨
言上ス是ニ因テ弥御忿怒甚シク先達テ駿府人執
事ヨリ密旨ニ因テ忠輝朝臣眾ヲ謝スハキ為ニ高

田ノ城邊祭ニ上臣藤園ニ至リ誓居シ玉フ

○補^{同上}佐竹右京大夫義宣ヨリ大鷹ニ聯テ獻シ

松平陸奥守政宗ヨリ大鷹壹聯ヲ獻シ最上駿河

守家親ヨリ大鷹ニ居テ獻ス本多上野介安藤帯

刀之ヲ披露ス

○十一日 補^{同上}曹洞宗松董宗闕 御前ニ出テ即

チ大藏一覽一部ヲ松董ニ賜テ林道春之ヲ奉ル

○十二日 補^{同上}曹洞宗ノ法問アリ題ニハ本末無

面目松董宗闕之ヲ述ス

○十四日 補^{同上}早天ヨリ山鷹野ニ出御アリ

○十五日 補^{同上}諸士例ノ如ク出任ス今日出御

ナシ○羽柴越中守忠興時股十重ヲ獻ス本多上

野介正純之ヲ披露ス

○十七日 東北ノ御使神尾刑部少輔登常ニ迄日

坂東ノ地御被鷹トシテ御出典アリシ由甚ク台

徳公御喜悅ノ旨ヲ述ル

○補^{同上}鴻巣ノ不残上人末府ニ前殿ニ出御アリ

テ拜謁シ即チ大藏一覽一部ヲ賜ル

○十八日 補^{同上}御鷹野ノ雁四ツ捉シメ玉ヒテ己

ノ刻還御アリ

○十九日 御鷹ノ捉ル鶴ヲ以テ日野唯心入道等

安西衆ヲ饗シ玉ヲ

○廿一日 補^{同上}御鷹野鶴一雁四鴨六具外鷺鶉ヲ

捉^トレノ玉ヲ

○廿二日 補^{同上}名護屋ヨリ成瀬隼人正志水甲斐

守未府ヲ御前ニ出ワ

○廿三日 補^{同上}幕府前殿ニ出御南光坊御

前ニ出テ佛法ノ御難詰剋テ移セリ晚及テ全

長門守重頼家督相續テ御札トノ銀貳千両具

牙内通頭可次左京重勝右銀百兩ヲ捧テ重頼亡

父ノ遺物トシ刀作国次腰差作正宗旦ヲ葉茶壺ヲ獻

ス本多上野介之ヲ披露ス追テ三台徳公ハ毛腰

指作吉光及小紫肩衝ヲ父ノ遺物トシ進出ス程歴

テ後三台徳公重頼ヲ召テ彼肩衝汝ヲ家宝トス

ハキ旨ニテ御前ニ於テ返テ賜ト云

○是日 小野左馬助高政享年五十八歳ニテ卒ス

○頃日 酒井雅樂頭忠世青山伯耆守忠俊土井大

炊頭利勝ヲ竹千代君ノ元老トシテ附属セラル旨

武陽ヨリ羽檄到来ス

○廿四日 東武ノ羽書到来當廿一日毛利長門守

秀就カ櫻田ノ宅ヨリ失火ヲ御達鳴津鎧鳴ノ宮類
焼スト云々

○廿五日 補^{同上}幕下ヨリ御使トシ王井天炊頭

○未府 御前出テ御密談刻ツ移ト云々

○廿六日 補^{同上}南光坊出仕御廣間ニ於テ御雜談

アリ織田常真御對面濡涼斗巻ヲ進セラル井伊

掃部頭拜謁シ時服拾領銀子并西ノ献ス

○廿七日 補^{同上}金地院京都ヨリ冬府ニ即チ御

前ニ出テ河内表ノ事ヲ伺ヒ玉フ是ハ河州八

尾ノ觀心寺住持タルニ聞テナリ

形ノ屋敷ニ左ケルガ是ヲ聞テ三百餘兵ヲ率テ山

形ノ城門ニ押寄セ悉ク戦死ス残黨三十餘人ハ屋鋪

ニ籠居テ家親カ臣木戸周防等カ攻来ルヲ待テ或

ハ討死シ或ハ自殺スト云々

○廿五日 神居ヲ江府ノ本城ニ於テ御饗應アリ

○廿日 補^{旅府記}明カ一日戸田ハ御鷹野トシ出御アリ

ルハナリ旨^命有リ

○廿一日 神居卯ノ刻江戸ツ出御アリテ午ノ

刻戸田ノ色ニ渡御是ヨリ日々ニ鳴巢忠岩付返

御放鷹アルニト云々

○廿三日 三宅惣右衛門康貞入道享年七十二歳
二ノ幸ス冬州以来忠勤ノ人ナリ其子越後守也

○廿四日 台徳公ヨリモ 嚴命アリテ幕下ノ士
大坂表ニテ逃崩ル、族見及リ趣入札ス、レ最モ

私ノ為意依怙志負ス、レアラリル由起請文ヲ書シ
ナラシム

○廿五日 大卯ノ刻 神居戸田ヲ 出却アワテ未
ノ刻川越ニ 渡却アリ 台徳公右ヲ入札 上覽

アワテ刻ヲ 神居ノ御旅當ニ 献セラシメ度永井
右近大夫部下ハ一己ノ吟味ニ 固テ副總ヲ決セラ

元寛日記

○補、 神居ハ花井主水ヲ駿府ニ召テ今度忠

輝ハ何故ニ軍役ヲ懈怠シ戦切ヲ立ラレルヤト御

尋アリシニ主水御請告ケレハ先年ノ軍兵兵道

明寺表ニ於テ敵ト又フ接レ御使ヲ馳テ其趣ヲ

告シカニ先年ノ大將伊達政宗邸山ニ支ヘ猶豫

セシムルノ間並令破リ難ク逢滞セシ内ニ若城

ニ手ツ空シ玉フト云々同家老将並ヲ召出サレ

御尋アルノ處ニ主水口上ノ如ク政宗ハ忠輝

卿ノ勇ナリ如何ナル所存ニテ逢滞シ忠輝卿ヲ

御留セシムルヤト皆人不審セシナリ

○ 廿八日 補駿府記 明 廿九日 關東筋へ御鷹野トノ弥

出御アリハナノ音 命ナリ

○ 補元覽日記 此日駿府 御祭駕アリテ清水ニ着御

○ 廿九日 神后關東ニ將シ玉ハカ為ニ駿城ツ

御出爽アリテ清水ニ着御アリ

○ 朔日 辰 未ノ刻 神后善徳寺ニ着御アリ路次御

放鷹アリ爰ニ翌日ニ御滞坐アリ

○ 二日 補 神后御逗留アリ

○ 三日 神后三嶋ニ至ラセ玉フ

○ 四日 神后小田原ノ城ニ着御アリ東武ヨリ

○ 補 台徳公ノ御使河井雅樂頭忠世小田原

○ 五日 神后相州中魚ニ着御アリ爰ニ救日御

○ 六日 補 御逗留アリ

○ 七日 補 御逗留アリ

○ 八日 補 神后藤沢ニ着御アリ

○ 九日 神后神奈川ニ着御アリ此所ニテ

○ 十日 補 御逗留アリ

○ 十一日 補 御逗留アリ

○ 十二日 補 御逗留アリ

○ 十三日 補 御逗留アリ

○ 十四日 補 御逗留アリ

○ 十五日 補 御逗留アリ

○ 十六日 補 御逗留アリ

○ 十七日 補 御逗留アリ

○ 十八日 補 御逗留アリ

徳公来謁^レ玉^レ先達^テ 還^ル御^ト云^レ

○十日 神后武江^ハ 着^ル御^アル^ハ 中^ニ 同^テ 行^ク

千代后^ノ家^ノ光^ノ 同^ニ 九后^ノ長^ノ河^ノ也^{ナリ} 幸^ニ 橋^ノ内^ニ 之^ヲ 迎^ム

カ^ニ 玉^ヲ 然^ルノ 神后^ニ 而^{シテ} 九^ノ 入^リ 御^ニ 台^ノ 徳^ノ 公^ノ 本^ノ

城^{ヨリ} 渡^リ 御^ニ 對^シ 顔^ヲ 御^ニ 談^話 到^リ 移^リ セ^ラ

○十三日 神后ノ命^ニ 因^テ 最^ニ 上^ニ 駿^ノ 河^ノ 子^ノ 家^ノ 親^ノ ハ 儀^ニ

其^ノ 庶^ノ 兄^ノ 大^ノ 藏^ノ 女^ノ 輔^ノ 義^ノ 成^ノ 石^ヲ 領^ス カ^ニ 居^ル 城^ノ 清^ノ 水^ノ ハ 山^ノ

形^ノ 城^{ヨリ} 日^ノ 兵^ヲ 奈^レ 也^{ナリ} 鑿^ニ 是^ニ 義^ノ 成^ノ 岳^ノ 々^ノ 秀^ノ 賴^ノ ハ

興^ス ル^ハ 露^ノ 頭^ス ル^ハ 故^也 義^ノ 成^ノ カ^ニ 子^ノ 孫^ノ 一^ニ 郎^ト 六^ノ 歳^ノ 十^ノ 山^ノ

是^ノ 人^ノ 文^ヲ 武^ヲ 兼^テ 備^シ 出^テ ハ 將^ト シ 入^リ

○晦日 補^ニ 卯^ノ 刻^ニ 神后^ノ 川^ヲ 越^テ 出^テ 御^ア リ

未^ノ 刻^ニ 忍^ニ 渡^リ 御^ア リ

○補^ニ 忍^ノ 邊^ニ 御^ノ 放^テ 鷹^ト ノ 忍^ノ 城^ハ 御^ノ 旅^泊 ア^ル ノ

時^ニ 御^ノ 自^身 ハ 淺^ノ 葱^ノ 深^ノ ノ 紬^ノ 御^ノ 小^ノ 袖^ノ 小^ノ 倉^ノ 織^ノ ノ 木

綿^ノ 御^ノ 膳^ノ 羽^ノ 織^ノ 薰^ノ 負^ノ 草^ノ 御^ノ 中^ニ 着^ル 黒^ノ 十^ノ 長^ノ 門^ノ 卯^ノ 菟^ノ

瓢^ノ 箆^ノ 根^ヲ 付^テ 附^テ 下^リ セ^ラ 御^ノ 供^ノ ノ 女^ノ 中

ハ 花^ノ 色^ノ 深^ノ ノ 立^テ 波^ニ 汐^ノ 波^ナ ト 裳^ノ 腰^ニ 掛^テ 白^ク シ

ハ 茜^ノ 深^ノ ノ 木^ノ 綿^ノ 裏^ヲ ケ^テ ツ^テ 懸^ニ 着^テ 淺^ノ 葱

布^ノ 三^ノ 尺^ノ 手^ノ 拭^テ 戴^テ 鏡^ニ 卷^キ 返^シ 餘^ヲ 頂^ニ 二^テ

是^ノ 人^ノ 文^ヲ 武^ヲ 兼^テ 備^シ 出^テ ハ 將^ト シ 入^リ

○晦日 補^ニ 卯^ノ 刻^ニ 神后^ノ 川^ヲ 越^テ 出^テ 御^ア リ

未^ノ 刻^ニ 忍^ニ 渡^リ 御^ア リ

○補^ニ 忍^ノ 邊^ニ 御^ノ 放^テ 鷹^ト ノ 忍^ノ 城^ハ 御^ノ 旅^泊 ア^ル ノ

時^ニ 御^ノ 自^身 ハ 淺^ノ 葱^ノ 深^ノ ノ 紬^ノ 御^ノ 小^ノ 袖^ノ 小^ノ 倉^ノ 織^ノ ノ 木

綿^ノ 御^ノ 膳^ノ 羽^ノ 織^ノ 薰^ノ 負^ノ 草^ノ 御^ノ 中^ニ 着^ル 黒^ノ 十^ノ 長^ノ 門^ノ 卯^ノ 菟^ノ

カラケタルが同ニ休ニテ三人程ツ陪從セリ
誠ニ雙素朴矣アル御體装ナリトテ感歎ニ奉レ

十一月小
朔日 補ニ在府ノ諸侯麾下ノ廣士拜礼アリ

○二日 台徳公鴻巣邊御放鷹アリ嚮ニ井伊掃部
以直孝ニ賜テ加恩ノ地ノ御印章ヲ授ラレ

今度於少坂表八月六日一戦ニ引地軍忠勤戦功ニ
以茲候迄以神妙ト也為テ賞メテ

以テ此後迄以神妙ト也為テ賞メテ
以テ此後迄以神妙ト也為テ賞メテ

此有是可令候知物

元和元年十一月二日

井伊掃部政よ

○九日 神居悉ヲ出御アリテ岩村ニ放鷹ニ玉

ノ台徳公ハ鴻巣ヨリ江城ニ還御アリ

○十日 神居越谷ニ渡御ノ取其地ニ水溜ヲ放鷹

ノ妨ニ及ユハ此所租税ノ吏御気色ヲ蒙ル是ヨリ

葛西千葉東金ノ地ニ放鷹ニ玉アリ

ノ婦子三人馬上ノ婢十八人並テ蜂屋九郎左末門

カ控卒五十人扈從ス

○十五日 補駿府記 神居哉告り人出即り馬ヲ葛西

二 渡即り

○十六日 神居六下総ノ千葉ニ渡御あり

德公ハ船橋ハ渡御是ヨリ佐倉ニ邊御放鷹且リ

御猪狩シ玉ウハキ由也

○十七日 補同上 補居東金ニ渡御あり 台徳

公ハ佐倉ニ渡御あり

○十九日 同上 台徳公ノ御使太田撰津守資宗後ノ名

又備中守 神居ノ東金ノ御旅營ニ至ル処新作ノ越前

下坂康速カカツ賜フ

大和郡山城六万石 水野日向守勝成

石見濱田城五万四千石 古田大膳亮重治

肥前嶋原城五万石 松倉豊後守重政

伊勢龜山城壹万貳千石 三宅越後守康信

右ハ今度大坂表ニ於テ軍功ヲ感セラルルニ因

テ也且テ五畿内ノ大名ニ命セラレ山城田原

城ヲ築セラル寛永元年ヨリ三年マテニ其功成

又

○廿九日 同上 神居来歳駿府ノ城ヲ冬設中將頼宣卿

ニ議セ玉フハキ一因テ御出栖ノ地ヲ撰テ城郭

築營アルベレ豆州三嶋邊然ハテ飲ト御訪テ
○是日自今以後諸国ハ三ヶ年ハ一度ツ、監祭
ノ使節ヲ遣リレ諸收等攻道ノ邱由庶民ノ艱苦ヲ
問ルヘシ天下既ニ平均スル上ハ早速諸州ノ大石
居城ノ外枝城大畧破却スヘキ由委細ニ西御所
ヨリ制令ヲ施サレ然レ奥州會津領ハ元ノ如ク教
ヶ所ノ枝城ヲ差置レ今年蒲生家ノ監使トノ費鴻
至膳信滿永田庄左衛門正利ヲ遣シ玉ヲ
○補ニ彼面々江戸ニ於テ領知セシムル如ク會
津ニ於テ領知ヲ賜リ元地ヲモ受テ蒲生家ヨリ之

○廿三日 ^{同上} 台徳公江城へ 還御アリ

○廿五日 ^{同上} 神后東金ヲ 出郊アリテ再ニ船橋ニ

放鷹シ玉ヲ処丑ノ刻ニ驛舎残ラズ燒己スト雖レ

御旅營災ツ遁ル

○廿六日 ^{同上} 神后葛西ニ放鷹シ玉ヲ

○廿七日 ^{同上} 西ノ剋 神后武城西ノ丸 還入シ

玉ヲ策燭ノ後木多佐渡子正信ニ既ニ常秋ヨリ老
疾ニ沉ト雖レ今日適々快ニ固テ召ニ應シ登營
ノ誓ヲ 御前ニ伺候ス久シノ病中タルニ本復ノ
様子御快然タルノ 御説ヲ蒙ル

○廿八日同上補_二諸侯以下出仕アリ且ツ来月四日

○廿九日江戸ヲ出御アリテ駿府ニ赴セラルヘキ

ノ事アリ

○補_二此日大坂城拾万石松平下総守志明

○上総小多喜屋根古五万石本多甲斐守政朝

右ハ今度具方叔父出雲守忠死ノ義感シ恩召ニ

同テ遺跡ヲ奉セラル出雲守ニ相替ス忠勤ヲ

勵ムヘキノ旨却誕アリト也

○信濃国松本城八万石 小笠原大学助忠政

後ノ名古近大夫

ヲ當ニ任メ領内ヲ巡見シ地頭ノ善惡ヲ監察セ

シムルト也

○按スルニ此後元和四年ハ會津表ハ跡部

氏部良保今村傳四郎正長ヲ遣ヒ至テ同ニ庚申

ニハ曾我喜太郎古祐神尾内記元勝ノ遣使トセ

テ此遣使遣ナルハ蒲生下野守忠卿幼弱ニ

ハ也

○補ニ惠業スルニ會津ノ地古ノ鎮守府ト指セル

所ニテ奥州ノ押トメ要樞ノ地タルヲ示ス

○十二月小

○朔日^卯補^二諸大名以下拜礼^一今日松平司松
御^一故^一一族家人等^一御^一大
賀出羽守忠政^一實ハ柳原式部大輔康政カ長子
ト成カ実弟柳原遠江守康勝大坂表^一於^一軍忠
セシムト雖^一落城以後病死^一其子毎^一ノ首言
上セシムル^一依^一テ大頃賀出羽守忠政カ嫡子固
松^一以^一テ康勝カ嗣子ト^一家督^一ヲ^一申セラル^一忠
政ハ正シク^一神后ノ御姪ノ子ナル^一故^一ニ松平氏
ヲ賜^一リ上総ノ館林城先規ノ如^一ク領知セシムト
也

青山伯耆守カ組今村傳四郎正長ヲ^一神后ノ御前ニ
召^一テ當五月七日ノ軍功御祿養ノ録^一ノ梶原景時カ
二度ノ蒐^一ハ其源太^一ヲ物^一ハキ為也^一此カ二度ノ蒐ハ
延藤カ馬ヲ返^一レト^一蒐ノ為^一ニ成^一ス所^一ノ梶原
優^一ト遙^一ナリ^一此ハ一騎當千ト云^一レト^一上意^一アリ
テ御着用ノ胴服御手自^一之^一ヲ賜^一ト云^一レ
○今村家傳ニ正長カ父彦兵衛重長御使番ニテ
千貳百七拾石ヲ領^一シ今度加賀ノ塚ノ軍並トノ
功^一アリ翌丙辰ノ年千石ノ恩賞^一ヲ蒙^一リ寛永四年
丁卯ノ五月卒去^一ス傳四郎正長ハ當月下旬千石

ヲ賜フ自己ニ取来三百石共ニ合セ領シ父重長
死ノ其高ヲ加賜リ二千六百石ヲ領シ是州下田
ノ海口ヲ守衛スト云々
又曰傳四郎正長カ戰場ニ携レ十文字ノ鎧ハ夏
目次郎石束門吉信ノ味方ク原軍ノ時務骨ヲ尽
シ相働キ神居ニ代テ忠死セシ時ノ持鎧ナリ
次郎右束門カ子長右束門信次ハ傳四郎カ伯母
一智也ケルガ正長カ生質名譽ノ武功ヲ成スベシ
ト稱シ父吉信カ鎧ヲ讓ケルガ果ノ拔群ノ勇名
ヲ頭ト云々

駿府記

○三日 台徳公本城ヨリ西凡ハ渡御ヲワテ
神居ニ謁シ玉ニ御密談刻ヲ移シ玉ヲ本多佐渡守侍
坐ス
○四日 辰ノ刻 神居江戸ヲ出御アツテ稻毛
渡御アリ翌日ニ至テ放鷹シ玉ヲ物負寡カラ
カ御喜悦斜ナラスト云々
○五日 補 神居稻毛ニ御逗留ナリ
○六日 卯ノ刻 神居稻毛ヲ出御アツテ相州
中倉ニ赴キ玉ヲ然辰ノ刻ヨリ大雪降テ供奉ノ
中凍死ニ及者救入アリ日ヒヨ和惡ナクハ救日爰ニ御

陸下云

○九日同上補三御小入頭稻垣權左束門誅戮セラル

○是六御鷹一行當少御鷹損セシノ故也

○十二日同上補終日雪降

○十三日同上補神后中泉ヲ出御アリテ小田

魚渡御アリ

○十四日同上台駕豆洲三鴻ニ至

○十五日同上辰ノ刻神后三鴻ヲ出御アリ此時吉辰ニ

依テ御退隱ノ土地泉頭三鴻西方御巡視アリ未春御繩

張アルハト由テ未ノ別駿州善徳寺ニテ御駕

ヲ旋リ止是日江都ニ於テ台徳公ヨリ往日藤堂

高倉ニ米色ヲ増封シ玉ニ御朱章ヲ賜フ

○今度於大坂表六月六日金銭ノ別地軍中ノ錢切

以テ以テ御室ノ別地ノ御用爲ニ貴方力在矣

○川ノ流奈相分テ流ル所九石ノ所ニ於テ合テ流ル也

○元和元年八月十二日十月十日御駕

○十六日同上神后印ノ刻善徳寺ヲ出御アリテ駿

府山城ノ還御アリ頼宣卿清水ニテ出テ迎ヘ玉

氏即予供奉^レ玉^リ

○十九日 ^{同上} 東武ヨリ節分賀儀ノ使節トシ土井大

炊頭駿府へ登城ニ且^リ 台徳公ノ仰ニ豆州泉頭

勝地ヨリ由欣然斜^リラ^ス未春江府ヨリ彼表ニ城

郭殿舎位當^レ玉^リハ^シ由演説ス

○廿五日 ^{同上} 江府ヨリ歳末ノ佳儀ノ使節神尾刑部

少捕駿府ニ登當^ス

○廿六日 大坂表ニテ戦功一番鎭ヨリ崩際切名

ニテ詳ニ美儀ヲ疑^レシレ鎭合馬入ノ證據ヲ紀^レ抽

賞^{アリ}

千石

五百石

五百石

五百石

五百石

五百石

五百石

五百石

大田善太夫吉正

山田十太夫重利

田中主殿物

渡邊半十郎宗綱

川口長三郎正武

中山勘^テ由照子

菅沼至殿足宮

服部權太夫政信

今度政信カ父政光卒去遺領三千石改信ニ合

七賜^リ總^テ三千五百石ヲ領^ス

却勝書川小姓

却勝書却小姓

却使書

後田中
ト改ム

五百石

五百石

五百石

五百石

五百石

五百石

寛助兵衛為春

権田小三郎為清

小笠原久左衛門正貞

高木茂左衛門

近藤全藏後志右工門
改

加藤傳兵衛正信

此正信陣場割ヲ勤メ且リ市橋下総守長勝隊

ノ逆使トメ矢尾ニ於テ敵徒ヲ搦捕工メ斯ノ

如ク加恩アリ且リ年々申セラル

千石

御書院番水野身人正組
水野多宮守重

千石

天野佐左衛門雄得

千石

東惣右衛門

千石

横田五郎三郎

千石

赤見猪右衛門

千石

平井久右衛門

貳千石

土方守右工門勝直

此勝直ハ加藤嘉明金吾秀秋ニ歴仕メ勇名ナリ

顯ニ頃年麾下ニ列シ今以毎録ニノ勤仕メ今

度貳千石ノ内五百石ハ一列ノ勤切ノ賞ニ

千五百石ハ金吾家ニ在シ時ノ先知ト称シ是

ヲ授ル下云々

五百石 三木十郎兵衛 延綱

五百石 本郷庄三郎 勝吉 後名庄右門

五百石 堀田勘左衛門 正利

五百石 柴田三左衛門

五百石 伊藤左源太利 政

五百石 境川三九郎

貳百石 天野権十郎 光則

此光則ハ每禄ニシテ父佐左衛門下共ニ出陣シ

功名セシ工ノ新知貳百石ヲ賜フ家督ヲ継フ

後佐左衛門下役

千石 御書院三番青山伯春守但 子久 大久保四郎左衛門 忠成

千石 後駿河御城代 玄善 以任ス

千石 中根傳七郎 正成

千石 高木善次郎 正成 初小十人子久後御書院番以 大御書院大隅守ト任ス

千石 後肥前守ニ任ス 至水正ト改ム

父至水正ハ御旗本ノ御先千タル故正成ハ至

水正備ハ行方御創ヲ蒙ル

今村傳四郎 正長

後下田御書

○補：溝口半左工門城織部次西人一千石并ノ
御セシカ兵父御島氣ヲ蒙リ改易工ノ力御加増

ノシ毎々

五百石 松前隼人忠廣

五百石 安藤傳十郎定智

五百石 川口茂右工門宗重

五百石 花房又七郎正榮
後右馬助ト改ム

五百石 大久保牛之助長重
後基右工門ト改ム

五百石 大久保源三郎

此時ニテ毎祿ニノ新知拜領也

五百石 井戸左馬助良弘
御書院四番松平哉中守但

千石 戸田藤五郎重宗
後備後守任ス

千石 三浦權三郎

五百石 駒井右京親直

三百石 駒井次郎左工門昌保

三百石 藤部氏部良保

五百石 御花畑番水野監物但
松平五左工門正吉

改正吉ハ五左工門正カ次男也慶長十比在

子以来毎祿ニテ勤仕ス新ニテ賜フ

三百石 石丸權次郎

三百石

五百石

四百石

貳百石

四百石

四百石

貳百石

三百石

同

朝比奈弥一郎 泰澄

却花畑番井上主計及但
土屋九門 知貞 後ノ名 忠兵衛

却花畑番坂倉周坊守但
山崎權八郎 後即月舟 長清奉行

国部庄九郎 長圓

稻垣藤七郎 重太 初小ノ人子及後大御番及 又即守守居若杖守任又

彦坂平六郎 重足

高田藤五郎 初小ノ人但及後即汝地取 後名庄在工門

中山内記 信吉 備前守男 後名市正

三百石

安藤与八郎

○朝倉仁左工門有重未夕每禄。于天王寺表ノ軍

功牧野駿河守護塚ヲ紀己言上ノ御書院番ニ到

采邑別ノ之ヲ賜フ後江府ノ所司此人祖父以来三

代假名実名相同皆仁左末門 有重ト云ハ

○難波戦場ニ于見崩ノ節逃亡セテ改易セリ

其姓名左ノ記ス

御書院番青山伯孝守但

村越内藏助

佐久間孫四郎

青山五郎八

青山小兵衛

司水御算人正但
土橋孫六郎

杉山三右衛門

堀田清十郎

○本多傳三郎西山清三郎三右ノ連坐、テ改易セ
テ、
○御膳番ノ御扈從假ノ御使昔田上右京進秀行山
上弥四郎三見崩ノ刻御後備破籠籠筒等ノ糧ヲ荷
テ難卒ハ中へ棄入多ク踰倒ケル、テ沙汰アリテ蟄
居ニ大竹御左工門止重、據テ之ヲ謝シケレ共

趣分明ユヘ禄ヲ避テ去レ然ニ田上ハ大坪流ノ取
法ヲ習熟シ奥州岩城ニ往テ其術ヲ以テ鳴也山上
ハ寛永年中肥前鳴原ノ役、松平伊豆守隆綱ノ備
ヲ借リ老戦ヲ遂テ飯袋ヲ許レシト欲ケルカ不運
ニシテ陳嘗ヨリ失火ニ空リ飯陳ノ後其終ニ知
ス以テ西士ハ元江臣ノ産ナリ
○青山善四郎重長ハ制令ヲ背キ叛菟ニ切リ頭ヲ
以テ改易セラレ後恩免ヲ蒙ル
○后川嘉右衛門重之ハ冬川泉ノ庄ノ産ニテ神
居ハ暇進シ儒学ヲ好テ雪ノ切ヲ廊シ珠ニ詩ヲ

賦スル一巧也然其氣象豪放。ノ司筆。増疾セラ
レ怯弱ノ汚名ヲ得テ替居レケルカ今度ノ軍ヲ幸
トシ出陣レ旋テ背テ櫻ノ門ニテ先菟ニ首ニ級ヲ
得ト雖其制令ニ違フ罪。テ改易セラル後年老母
ヲ養レ為。藝州。客トノ禄ヲ得ル浅野長晟没後
彼因テ去テ洛陽四明ノ麓一葉寺村ニ至テ幽栖ノ
菴ヲ造ヘリ十境亦十二景ノ眺望アリテ六々山久
大山ト号レ中朝ノ許人三十六人ヲ擇テ額ニ畫テ
且テ其許ヲ書テ壁ニ掲ケ其室ヲ詩仙堂ト云ヘリ
誓ラ水年市ニ臨ニズ。後水尾帝渠ヲ仙洞ニ名ト

雖其辭ノ。院叅セズ其瀨見ノ小川ノ和歌人口
繪矣ス

○御旗奉行保坂金右衛門御押前ニテ御旗ヲ攪シ
士卒ヲ疑惑アラシムルニ。改易セラレ。後年免科
云。

○假却鎗奉行永田善左衛門重利同ク坐アリテ別
門レケルカ免許ナリ内ニ卒去レ家断絶ス

○八王寺小人頭ハ甲陽武印ノ士也今度虎草地籍
ノ御救鎗ヲ歩卒ノ族ニ渡シ社方宜ノ加恩五千石
宛是ヲ賜ヘキヤ當座ノ賞トノ白銀ヲ授ラレヘキ

ヤト御尋ノ處資料逼迫シ白銀ヲ願フ亦枚ツ、
拜受ス其中志村勘左末門貞時ハ五十石ノ賞禄
ヲ願望ツ之ヲ拜領ス

○亦七日大坂ノ質子大御弥十郎佐理連見出来
尤甲斐旦リ古田山城守織部正長男江府本誓寺ニテ誅
セウル村上周防守頼勝ハ大坂屋敷ノ衛守富田次
郎左末門ニ敵方ハ内通ノ由露題シ周防守ニ告ラ
是ヲ誅セウル

○奥台徳公ノ近臣小山長門守成頼豊後守正
武ハ軍切アリト雖氏生害セリ是ハ西人斬金芝蘭

ノ友也常聞六月廿一日却恭内ノ時各供奉シテ
ルカ豊後守妻ハ伊東修理大夫祐慶カ妹ニハ其縁
族官女ニ教多ルニエハ豊後守ヲ閑房ハ呼入ケル
依テ正武ハ則チ長門守ヲ携ヘ往テ冠ヲ被ラ盃
酒ノ與フ確ス小山ハ姿色ノ誉アルニハ壯歳ノ女
孀餘多出ラ奔走セシテ遂後、叛武、漏間ニルニ
因テ豊後守ヲハ土井利勝ニ預ラレ享年口ニ載ニ
ノ新知恩寺ニ於テ生害朋友井上靖兵衛改重分錯ス長
門守ヲハ安藤重信ニ預ラレ吉祥寺ニテ自殺シ朝
友細井金兵衛勝吉分錯ス

○廿八日 新庄至殿直好鴻田清左木門直時各從

五位下 叙西人共 越前守卜称ス

○廿九日 来元旦ノ出仕ヨリ 駿武共ニ 諸臣其官

位ニ 隨テ 烏帽子狩衣大紋ヲレシ 平士ハ 素袍白

論ヲルヘシト云

○是日 小野傳三郎高行始テ 豊營ニ 台徳公へ

拜謁ス

○補ニ 是年 神后ノ 姫后 浅節 長晟ニ 嫁シ 玉ヲ

是ハ 始テ 蕭生 飛彈子 秀行ニ 嫁シ 玉ニ 姫后ニ

○是年 難波ノ 軍切ニ 依テ 内藤 帶刀 忠知ニ 部屋

位ノ 内ニ 壹万石ヲ 加ヘ 賜フ 都合貳万石ヲ 同ノ 上

ヲ 趣ニ 阿部 修理亮ヘ 新知 壹万石ヲ 上総 国中

瀧 於テ 賜フ 坂崎 出羽 守 成 正ト 本多 大隅 守 忠 純

ニ 壹万石ヲ 賜フ 坂崎ハ 本知石 川津和 節共

長沼共ニ 二万 本多 能登 守 忠 義ハ 美濃 守 忠 政カ 三

男ニ 来夕 無 禄ノ 貳 万石ヲ 賜フ 同 苗 出 羽 守 正

胤ハ 上 野 介 正 純カ 次 男ニ 是ニ 每 禄ヲ 一 万石

方 石ヲ 封セラル 保 科 甚 四 郎 正 貞ハ 兄ノ 養 子 夕

シカ 甚 夕 不 和ニ 大 忍 手 戦 場ニ 至ニ 大 切 ヲ 頭 大 故

三 千 石ヲ 授 ンル 後 彈 正 忠 檀 村 新 三 郎 家 政 出 羽 守 家 政 子

二五子石ヲ加賜ノ

○成瀬伊豆守之成ハ父集人正ノ本知壹万石ヲ賜フ永ノ幕府ニ奉仕スレト云ハ是ハ父既ニ尾陽義直卿ノ輔臣タリト雖氏今年迄ハ神君ニ後ラ政事ヲ沙汰スル如ク漸ク尾臣大山ノ城へ移リ嫡子半左末門正虎共ニ尾州ノ政務ヲ執ル是ニ依ラ集人正正成ノ舊知ヲ伊豆守ニ授ケルト云ハ之成寛永十一年甲戌享年三十九歳ニノ卒シ家断絶ス

○内藤豊前守信政信成子江石坂田郡長瀬ノ城地ヲ時ニ堪州茨木郡高槻ノ城ヲ賜フ

○補家志日記是年池田三丑郎恒之予時丑成從ニ松平

江戸ニ来リ台徳公ニ拜謁ス時ニ御腰物中堂

ヲ恒之ニ賜ル安藤重信從五位下ニ叙シ伊勢守ニ任ス後石京進安藤對馬守重信カ養子矣ハ本

多藤四郎カ子也池田治兵衛長幸從五位下ニ叙シ備中守ニ仕ス

○卷洲加茂郡松平ノ卿王太郎左工門在氣ノ尚巢カ長子太郎八郎信正ニ貳百石ヲ賜リ暇迄ノ士ニ列セラル信正元和三年丁巳ノ夏早世シ跡絶

○高木五水正カ但ニテ戦死セシ同宮左兵衛正秀カ

子正勝于時十一歳リトシテ 神后ノ御前ニ召テ
則テ庄五郎ト稱セラルレモ父ノ遺跡ヲ賜リ且リ安
藤對馬守重信ニ 軍ニ一旅置リ後見スヘシト云
遂ニ百石ヲ増封セラル 成長ノ後 台徳公ヨリ大
坂城米ノ倉原ノ吏ト成レ又或百石ヲ加ヘ賜フ是
五郎政信
カ父ナリ

○大岡忠右束門忠代カ長子忠種 僅カク四歳ヲ召テ同苗
忠四郎忠行大坂ニ戦死シ其子ナレ 汝リ彼家督ト
ス莫父宜ク養育ノ成長ナリレニ 一々旨 命セラ
ル 後忠四郎
ト稱ス

○杉浦藤次郎時勝大坂ノ役ニ左ノ掌ヲ大砲ニ傷
ニ冬州ノ舊邸 飯ノ療養ス後年 台徳公御上洛
御飯路ニ時勝供奉スヘキ旨 命アル処辞退シテ
レハ其夕 御旨ニ應セスト云々

○尾陽侯ノ長臣渡邊重國カ次男忠七郎忠綱 行時
歳 台徳公ニ奉仕ス

○間宮若狭守綱信カ孤子忠丸束門重信ノ大歌公
ニ奉仕ス

○補ニ御日記ノ趣ヲ以テ左ニ加入ス
前田三十郎

右兩人ハ自身ノ高名ナシト雖も能ク場所ニ堪
ヘテ数多高名セシ證據ニ立シナリ

本多出羽守 屋代政中守 久世三四郎

右三人ハ悉テ御先手ヘ往テ手ニ合シテ入

赤川内膳 大久保助左工門 林三十郎

大久保半助 羽柴助左工門 朝比奈孫太郎

河野權右工門

右七人ハ却島氣ノ身ナリシカニ御先手ヘ往

テ手ニ合シナリ

御目付 豊嶋刑部 御目付 加々見甚十郎

御使番

間宮權九郎工門

御納戸

石川嘉右工門

右四人ハ 神君ノ御家人ニシテ各御先手ヘ往テ
手ニ合シナリ

御徒頭

河野左馬助

右ハ御旗本味方崩レ敗軍ノ砌但ノ衆ヲ率テ能
ク場所ニ堪ヘ 將軍家直ニ却覺アリ其味方敗

軍ト不敗軍トノ却談議ノ節 上意ニハ左馬助

ニ對シ詞ヲ懸タルヤ否ヤ尋ヘレトノ命ニ依

テ数多ノ證據ニ立シ也

○補、今年五月七日ノ合戦ニ御先手ニ於テ討

死ノ輩左ノ如シ

高木主水正組

大岡忠四郎

筒井喜之助

青山伯耆守組

野一色頼母

古田九丞

水野隼人正但

松平左九郎

松田助十郎

米倉小傳次

林藤四郎

間宮庄五郎

別所主水

服部三十郎

大崎左太夫

松倉藏人

山口小傳次

山口小傳次

山崎助四郎

右討死都合拾七人也

安藤彦四郎

安藤祐右衛門

坂部作十郎

山口伊豆守

本多忠雲守

小笠原兵部太補

小笠原信濃守

神保長三郎

奥田三郎左衛門

深平ヲ履小屋
坂ノ死ス

番ハツレ政御先ニ進テ討死ス

御勘気ノ身ユハ井伊平手ニ加リ
五月六日討死ス

七日討死

同上

同上

但シ味方討

六日大和口ニテ討死

子息共七日討死

古田左近
車田権七

七日三子原其子創

戸田藤五郎

改易ノ身ニテ却先ハ

相模守子
大久保内記

○改易ノ輩御先ハ進ニ御ニ輩

神居ハ直断ヲ以テ

河野權右平門

井伊平ニテ鑑ヲ合

林三十郎

却先年ニ進ニ切名ニ

大久保平助

召出リル後河亞相忠長卿ハ後仕ス

羽柴申左平門

右ノ歌ニ屋志兵衛家本ヲ以テ之ヲ記ス

○古田織部父子六人共ニ家人茶道宗喜京都火
付ノ棟梁クニ依テ後難ク悲ニ自殺ス

○大坂大将分ノ者首討捕ニ輩

真田左末門佐首ハ
織部女将家人
西尾仁左末門

御烏越前守首ハ
右同上
御本右近

木村長門守首ハ
井伊掃部頭家人
安藤長三郎

内藤新十郎首ハ
右同上
日下部源太郎

山口左馬助首ハ
右同上
八田金十郎

塙團右末門首ハ
浅野但馬守家人
放矢多胡助左平門
取首八木新左平門

於輪六郎兵束首ハ
後藤又兵束

右同上
永田六兵束

是ハ改宗年ヨリ
吉村武右衛門ニ
後搜出ニ獄門ニ
島人

薄田隼人止首ハ

水部日向子家人
川村新八郎
月住掃部家人
榎木舎人

大野道軒ハ生捕ニ場ニ於テ誅セラレ

年礼彦三郎首ハ
右同上
日下部三郎兵束

相討
大島居彦八郎

長曾我部宮内女捕ハ生捕ニテ誅セラレ

以上

國朝大業廣記卷之百四十一

元和二丙辰年

正月大

○元日 駿武西宮中御規式恒例ノ如シ今春日

始テ諸臣官位ニ應ル烏帽子ヲ衣大紋ヲ用ニ無官

ノ御家人士烏帽子素袍ニテ出仕ス

補ニ元寬日記正月朔日天快晴年始メ御禮有リ印ノ刻

將軍家秀忠公 江城黑書院ニ 出御有リ御太刀

御刀迄臣等役之 竹千代君 家光公時 十二歳 公ノ御

左座ニ着座在リ尤御装束ヲ召ル 家光公ノ御 長袴ヲ召ル

時ニ因松君 忠長卿後駿河 大納言ト号ス 長袴ヲ着ニ御勝手ノ

方ヨリ出座 時ニ一歳ニ 御太刀目錄酒井雅樂頭忠世

持出披露ス敷居ノ内ニテ御禮則御座ノ右ノ方

ニ着座却盃ハ迄臣井上主斗頭正親御吸物ハ水

野盗物忠元御捨土器ハ主計頭役之 竹千代君

ハハ申ニ及不因松君ハ主計頭御加ハ監物 將軍家

御鈍子 長柄 御酌ハ主計頭御加ハ監物 將軍家

召上ラレ御加有リ其御盃御三方ニ載セ御上段

一疊目ニ御酌扣ハラ有之時ニ 竹千代君御中

座有テ御頂戴御加有リ御盃持セラレ御本座ハ

退ナリト時ニ酒井忠世盃ヲ取三方ニ載セ

御前ハ持参其御盃 召上ラレ 竹千代君御出

座有テ御禮御帰座ノ時御手自ラ御肴ヲ進セラ

ル御出座有テ御頂戴御復座ノ時御加有リ其御

盃因松君ハ進セラレ 旨御會釋有リ則御盃三

方ニ載セ御上段ヨリ二疊目ニ御酌有之時ニ剛

松君御中座有リ頂戴加有リ御次ノ間ハ盃ヲ持

退ル時ニ土井大炊頭利勝盃ヲ取テ三方ニ載セ

御酌へ渡す具御盃 召上ラレ、時、因松后中
座有之御禮帰座ノ時吳服臺ツ出ス出座有ラ是
リ頂戴復座ノ時御加有之右ノ御盃 御前ニ召
上ラレ御加有之御納ソ御靴子入却吸物引畢テ
竹千代后國松后殿、御退座其後 秀忠公白書
院ニ 出御御太刀御刀ノ役人右司断此時尾張
國主参議役三位兼右近衛権中将義宣御礼太
刀目錄土井利勝披露ス 御座ノ御左ノ方ニ着
座敷遠ノ國主参議役三位兼右近衛中将頼宣卿
却禮右司断御太刀ハ森川出羽守重俊是テ受テ

常陸ノ國主従四位下右近衛少将頼房御礼右
ニ同ニ何茂次弟ヲ追テ着座次ニ越後ノ守護役
三位中将忠直御礼太刀目錄酒井忠世披露ス次
ニ加賀ノ守護小松次将利常 筑前守後播州姫路
改肥前守
之至 始ハ備前國因山後因
幡ノ鳥取又播州姫路 役四位下侍役利隆 平松
武藏守池田三左 末門輝政嫡子 太刀目錄持参御礼何茂着座ス
御盃井上主計頭御引渡水節監物御捨土器奈川
出羽守勤之着座ノ面々ニ引渡ニ出之御給仕
ノ役トシテ義宣卿ハ何部備中守正次頼宣卿
ハ水野隼人正忠清鶴千代后 後水戸中納言頼房卿 ハ

青山伯耆守忠俊志直卿、内藤若狭守重信前
田利常、松平越中守池田利隆、新庄越前
守直定等勤、御酌、井上主計頭御加、水野監
物、御前、召上、御加有、具御盃三方、載
也上段、二疊目、御酌、扣有之時、尾張殿出座
有、頂載加之時、具盃御次、間、持退、時、酒
井志也取之三方、載、御酌、渡、御前、召
上、時、義宣卿中座有、御礼復座、時、吳服
臺出、三疊目、カケ南北、方、長、置高、カ左
近、太夫志房山口、但馬守重那、是、持出、尾張殿

出座頂載、御前、御盃駿河殿頂載、御作法右同
断、吳服臺、松平出雲守兼高松平石見守康安、持出、駿河殿出座頂
載、具後、御前、御盃三方、載、水戸殿頂載、御
作法右、同、吳服臺水野備後守介長、松平豊前
守勝茂、持出、頼房卿出座頂載、具後、御前、
盃三方、載、三疊目、御酌、扣有之時、教士等出
之、越前中將志直卿加、無、之、其盃持退、時、明三
方、安、阿部備中守役、吳服臺高木正正成
皆川山城守廣照、持出、四疊目、カケ置
之、忠直卿中座有、頂載、御前、御盃三方、載

七御鈍子三疊目。如有之時前田利常出座有。
頂載吳服臺出。松平大隅守重利桓村帶刀康勝
持出。右ノ所ヨリ少シ下ヲ置之利常座座在
ノ頂載御作法右ニ同シ。御前ノ御盃三方ニ載
七御鈍子三疊目。扣ノ有之時池田利隆出座在
ノ頂載加ノ無シ具盃持退。明三方引之奈川出
羽子役。吳服臺出。臺置所右ニ同シ。堀市正利
堂收野内近頭信成持出。不利隆出座有。頂載御
鈍子入水野臺物御雜煮井上主計頭但御引渡着
座ノ面々ノ雜煮出。御酌臺物御加主計頭

御前ニ召上ラシ御加有。其御盃三方ニ載也最
前ノ席ニノ尾張殿頂載加ノ有。御次ノ間ノ持
退ニ時ニ忠世取。御酌ノ渡。御前ニ召上ラ
レ駿河殿ノ遣リル頂載有。退ク時ニ忠世取。御
酌ノ渡。御前ニ召上ラシ水戸殿ノ下リル
頂載有。退ク時、明三方曳ノ森川出羽子役。具
盃ヲ手ニ載也。越前忠直御前田利常池田利隆
須孟御鈍子入。三獻御盃主計頭御吸物但盜物
御雜煮。引督御着座ノ面々ノ吸物出。雜煮
引督御酌主計頭御加奈川出羽子。御前ニ召上

ヲ御加ハ有テ御盃三方、載セ右ノ席、テ尾
張殿頂載、御前ハ右上方、テ駿河殿、遣テ頂
載、御前ハ右上方、テ水戸殿、遣テ頂載復座
ノ時明三方曳ノ逆物役、其盃年、載セ志直卿
利常利隆頂盃御鈍子入、御吸物引ノ何茂退出
具後御譜代大名近臣侍従ノ輩太刀目録持參敷
居、内、置御礼時、御前、右上方、テ夕、御
盃御鈍子、載セ上、テ六疊目、御酌扣、在、之
時松平伊豫守忠昌出座御盃頂載、松平出羽
守直政松平甲斐守忠良松平德政守足勝酒井雅

樂頭忠世土井大炊頭利勝安藤帶刀重信永井信
濃守尚政青山大藏大輔幸成以下大勢太刀目録
持參面、壹人宛御礼御盃并吳服頂載或ハ臺或
ハ廣蓋、テ出、テ頂載、テ退去、テ太刀目
録、何茂近習衆曳、右畢、テ大廣間、出御上
殿、着御此時雅樂頭間、禊障子ノ間、敷居
際、御次、御譜代、大名小名番頭近習外様ノ
諸大名三千石以上ノ面、法印法眼太刀目録前
置、之其外布衣并寄合御書院番頭諸役人大御
番頭小從人但並居一同、御礼忠世披露畢、御障

子因之童_{御上段} 御着座御引渡御着至計
頭御酌監物御加御盃 御前_{召上} 御加有
之御盃御鈍子_{載七中段} 西_{方下} 二疊
目_扣 有_{之時} 御鈍子代_{酌下段} 二疊 扣
有_{之時} 持敷土番出_{出時} 守役_{松平和泉子家}
采_{一族之上座} 始松平宮内少輔忠頼初名左
有_{座敷} 孫故_{隔年} 松平至殿頭忠利深溝
松平伊豆守信吉藤井_家 以下諸大夫 面
御流_賜 吳服廣蓋_{頂戴御勝手} 鈍
子出_或 二鈍子或_{三鈍子} 法印法眼御流吳

服頂戴畢_{御鈍子入} 主計頭監物出_{守吳服}
頂戴<sub>是依_{御役勤} 畢_{入御童} 鈍子出_布
衣諸役人御番衆御流頂戴御同朋頂戴畢_{二鈍}
子披縁_下 幸若小_{八郎} 觀世太夫若御流頂戴
御鈍子入_又 入御_{剋大廊下} 久志_幸 諸
剛_{高家由緒有面} 並居_{御礼白書院次} 間
御小姓_面 並居_{一同} 御礼御縁_{後藤} 本
阿弥將野吳服所具外御扶持人_{諸職} 共進物
面_前 置御礼阿部_中 手披露御考者 御
白書院_溜 伏見_勘 即代_勘 太_初 録_前</sub>

置御礼御黒書院御勝手ノ方ニ諸番頭組頭同
組中御膳奉行御右筆並居テ一同ニ御礼入御
御廣間御礼過テ以後御白書院御縁煩ニ於テ主
計頭監物出羽守常時高家衆勤之後何茂源蓋ニ
テ吳振頂戴入御以後大廣間三之間ニテ在御
ノ面ニ名代ノ使者ヲ以テ太刀月録獻上阿部備
中守内藤若狭守水野年久正松平越中守新庄越
前守高刀左近大夫山口但馬守奏者番請取テ是
ヲ納ム老中列座テ是レ於テ元旦御礼規式事
終ル

同上

同日晚景 將軍家酒井忠世土井利勝ヲ召テ
唯今迄駿府江戸ニ於テ正月元旦二日ノ御礼兼
三日ノ御禮同夜御謡初五日六日寺社ノ御礼
性、法式有リト雖モ混乱ノ故増テリ仍テ去年
ヨリ御吟味ヲ遂ラシ御礼ノ規式新ニ是ヲ定テ
ル自今以後御子孫御代ニ於テ定式ニ致ル
キノ旨 仰出ル
○是日 福釜ノ松平筑後守康親ノ長男右京十六
歳ノ神君ヨリ御諱字ヲ賜リ從五位下ニ叙メ
讚岐守康盛ト稱ス後ニ筑後守ト改メ

家忠日記
補 台徳公ノ御使駿府ニ来テ 神后ヲ拜謁

○是日 武域、於テ上州館林ノ城主神原康勝カ

家督國九年十二歳ニ、御諱字ヲ賜フ且ツ外曾

祖父大頭賀康高ニ賜フ所ノ松平ノ御称号ヲ直、

授ケラレ後五位下ニ叙シ式部大輔忠次ト称ス

後年從四位下ニ叙シ侍從ニ任ス其子

或部大輔政倫以來牛氏神原ニ復ス

補 東武實録 名五郎左束門ト有テ忠次ハ神原康政

ノ孫、テ出羽守忠政カ子也忠政ハ康政カ嫡子

タリト雖モ外祖父大頭賀五郎左束門康高カ養

子ト成テ大頭賀ノ家ヲ継テ忠政卒ノ後其子忠

次又大頭賀ノ家ノ継テ然ル所ニ神原康政カ

嗣子遠江守康勝始政 去年五月廿七日ニ卒ノ神

原ノ家絶シト是ニ依テ是年ニ神后ノ命ヲ奉

テ忠次大頭賀ノ家ヲ改メ祖父神原康政カ家督

ヲ継テ是ニ依テ大頭賀ノ家名断絶ス

○二日 元寛日記 將軍家大廣間ハ出御御太刀御刀近臣

是ヲ役ス松平左束門督忠継松平宮内少輔忠雄

嶋津兵庫頭義弘淺野但馬守長晟毛利長門守秀

...

就細川越中守忠興後三奇森右近大夫忠廣後三奇揮頭
賀阿波守至鎮立花左近將監宗茂後三奇宗對馬
守義成獨嶋信濃守勝茂右一人亮太刀目錄持參
○下段敷居際二疊目：一御礼直：御左ノ方：着
座太刀目錄奏者步是ヲ曳ノ御引渡三盃付井上主
計頭御捨土留水野監物御前ハ召上ラレ御加
是有リ着座ノ面：一引渡足打：一是ヲ出ス
御盃御鈍子ニ載セ中段ノ四疊目ニ如是有リ時
池田忠継出座有リ頂戴歸座ノ時其服量是ヲ出
之上ヨリ五疊目ニ東西ハ長ク是ヲ置ク忠継頂

戴以池田忠雄御盃并ニ其服頂戴ノ御作法右
同断嶋津美弘御盃頂戴ノ間ニ敷土器是ヨリ出ス
森川出羽守是ヲ從ス侍從ハ少將ヨリ少下ケ
テ是ヲ置ク右頃ハ一頂戴畢テ御鈍子ハ御引渡
是ヲ引込ハ敷ノ土器ハ其儘是ヲ置キ御鈍子出
御酌監物御加主計頭最前ヨリ御前ニ是有リ
敷ノ土器召上ラレ御盃御鈍子ニ載セ御酌扣
ハ是有リ時佐竹右京大夫義宣伊達遠江守秀宗
黒田筑前守長政京極若狭守忠高右一人亮太刀
目錄持參下段敷居ノ内ニ是ヲ置ク其身ハ板縁

御禮則御而項戴是有此時吳服廣蓋御拜
領但侍從畢御鈍子入谷退去次喜連川左兵
衛尉足利左馬頭御禮太刀目錄忠世持參中段
置披露中央御禮吳服臺御次ノ間
於拜領右過御襖障子是開ノ敷居際
出即諸太夫ノ面太刀目錄前置一同御
禮重御着座御引渡組付御鈍子是出御
前召上御加是有御盃御鈍子載中
段西方御酌代御酌下段一置目是
有時諸太夫ノ面一人死出座御流吳服

項戴此時御勝手御鈍子上是出二鈍
子御流下御畢御鈍子入次鳥山下總守
前田大和子豊考廣蓋御吳服拜領畢入御
堂御鈍子是出御流下大廣間御入
御剋大廊下無官醫師連歌師進物前置御
禮御白書院着座私曰當時此所御
下云間御襖障子是開御次ノ間御代官
樽代前置御前通鈴木遠江宗良大和落縁
諸職人並居御禮奏者番披露入即以後大
廣間三間御在國在所大小名名代使者

太刀目録奏者番詰取是ヲ納ム苑中列座大廣間
出御以前ヨリ鳥帽子ヲ着シ出テ座ス落縁
舞ハ猿樂伺公ス右冬節在因定ラリ故ニ
御礼ノ儀式出座ノ次第年々少シ死相違有大概
此式ヲ以テ例年ノ式トスレト是ヲ仰出テ

東武實録

三日 補 禁裏ノ新正ノ賀儀ヲ獻セラル

當今 白銀百枚 蠟燭千挺

院御所 白銀五十枚 蠟燭五百挺

女院御所 白銀五十枚

女御 白銀五十枚

白銀二十枚 長橋局

黄金十兩 廣橋大納言

同断 三條大納言

白銀三枚 秋篠大弼

同断 岩倉木工頭

補 將軍家辰所刻白書院 出御御上壇

御着座御刃不近近是ヲ役不國持大名息無官

面々右一人宛太刀目録持卷御礼太刀目録

番頭是ヲ曳畢テ御廊下溜迄出御無官大名

太刀目録前、置、御礼忠世披露、右、後座、
諸大名ノ證人等、并伊兵部少輔直好松平式部
大輔忠次、奥平義作、守忠、昌等、カ家老御礼奏者番
是、披露、白書院次、間御縁、江戸上京下京
大坂堺奈良伏見大津淀過書、近代銀座朱座是、加ル並居、
御礼奏者番是、披露、
同日、御謡初、酉、右、刻、將軍家大廣間御上壇
、御着座御長袴御刀、近臣是、後、尾張殿駿
河殿一人宛、御目見雅樂頭是、披露、則御向
、方、着座御次、間、松平和泉守家乘松平丹

波守康長松平主殿頭忠利本多豊後守康範初、
即具後伊勢右、南、北、同、公、
宇又豊後守右、南、北、同、公、
東武實録去年、春、攝州大坂乱撃故、御謡初是、無、
此、春、天、下、太、平、静、謐、是、依、御嘉例、如、
江、城、於、今、度、御謡、初、有、
左、
松平安房守信古、
松平甲斐守忠良、
松平丹波守康長、
松平外記忠實、
設樂甚三郎貞代、

御註初ノ規式例ノ如シ

初獻ノ御盃御引渡御捨土畧御三家ノ捨土畧
引渡是ヲ出ス御次ノ間着座ノ面々ノ引渡是
ヲ出ス御鈍子是ヲ出ス御前ノ召上ラレ御加
是有リ其御盃三疊目ニ御酌扣是有リ時尾張殿
出座頂戴加人是有リ其御盃次ノ間ノ持退ノ時
忠世是ヲ取リ御酌ニ渡ス御前ノ召上ラレ其
御盃駿河殿出座頂戴加是有リ御次ノ間ノ持退
ノ時忠世是ヲ取リ御酌ニ渡ス御前召上ラレ
其御盃水戸殿出座頂戴加是有リ復座ノ時御酌

替リ水戸殿前ニ是有リ盃是ヲ取リ御次ノ間着
座ノ面々ノ南ヨリ始ラ千鳥掛ニ通ス明キ
三方是ヲ曳キ二獻ノ御盃御吸物御引渡御三
家并ニ御次ノ間着座ノ面々ノ吸物是ヲ出ス
引替御鈍子御鈍子出御前ノ召上ラレ御加是有リ
其御盃尾張殿出座頂戴加是有リ其御盃次ノ間ノ
持退ノ時忠世是ヲ取リ御酌ニ渡ス御前
召上ラレ御加是有リ其御盃駿河殿出座頂戴
加是有リ其御盃御次ノ持退ノ時忠世是ヲ取
御酌ニ渡ス御前ノ召上ラレ御加是有リ其御

盃水戸殿出座頂戴加是有り復座ノ時御酌替
水戸殿前ニ是有ル盃ヲ取り御次ノ間着座ノ
面々々之北ヨリ始テ千鳥掛ニ通テ明三峯
是リ也キ御前ノ御吸物是リ也ク御三家等ニ
御次ノ間着座ノ面々吸物持テ退座三獻落ノ臺
星ノ物御鈍子出御前ノ召上ラレ御扱ノ時
雅樂頭出座シテ謡クノ旨是リ傳テ觀世大
夫四海浪ノ小謡是リ謡ク畢テ御加是有リ其御
盃尾張殿出座頂戴星ノ物御肴是リ遣テ加
是有リ其盃御次ノ間ノ持退ニ時ニ忠世是リ

取り御酌ニ渡ス此間ニ老松ノ稚子ヲ始シ
御前ノ召上ラレ御加是有リ其御盃駿河殿出座
頂戴御作法右同断具御盃水戸殿出座頂戴御肴
是リ遣テ加是有リ是リ取り御通りニ
露ノ臺是リ也此間ニ尾張殿駿河殿水戸殿忠
長御進上ノ臺上ヨリ三疊目ニ是リ置テ忠世披
露ス御座ノ左右侍是リ置テ四獻ノ御鈍子尾張
殿進上ノ臺ノ御盃御前ノ召上ラレ御加是有
有リ其御盃尾張殿出座頂戴加ニ是有リ復座ノ
時御酌替ニ尾張殿前ニ是有ル盃是リ取りニ鈍

子ニテ御通りニ成是ヲ下カレ明臺是ヲ曳ク五
獻ノ御鈍子出駿河殿進上ノ臺ノ御盃御前ハ
右カラレ御加是有リ其御盃駿河殿出座頂戴加
是有リ復座ノ時御酌替ル駿河殿前ニ是有リ盃
是ヲ取り御通ニ成明臺是ヲ曳ク水戸殿進上ノ
臺ノ御盃御前ハ右カレ御加是有リ水戸殿
出座頂戴加是有リ復座ノ時御酌替ル水戸殿前
ニ是有リ盃是ヲ取りニ鈍子ニテ御通ニ成最前
ノ御酌ニ替ル此間ニ諸大名進上ノ臺忠世披露
ス西ノ板縁ニ是ヲ並居六獻ノ御鈍子出却中壇

是有リ臺ニテ御前ハ右カレ其御盃御鈍
子ニ戴越前守忠直御ハ是ヲ下カレ御酌替ル右
ノ盃是ヲ取り御通ニ成最前ノ如リ御酌入替ル
松平出羽守直政左近將監宗茂并伊兵部少
輔直好右カレ出シテ御盃是ヲ下カレ高砂ノ御難
子畢テ御通御鈍子一同ニ入忠世御縁側ニ出座
大夫ニ吳服是ヲ下カレ松竹ノ臺出又御鈍子出
御前ハ右カレ御加是有リ其御盃駿河殿出座頂戴加
是有リ復座ノ時御酌替ル駿河殿前ニ是有リ盃
是ヲ取り御通ニ成明臺是ヲ曳ク水戸殿進上ノ
臺ノ御盃御前ハ右カレ御加是有リ水戸殿
出座頂戴加是有リ復座ノ時御酌替ル水戸殿前
ニ是有リ盃是ヲ取りニ鈍子ニテ御通ニ成最前
ノ御酌ニ替ル此間ニ諸大名進上ノ臺忠世披露
ス西ノ板縁ニ是ヲ並居六獻ノ御鈍子出却中壇

大夫。是ヲ下リル何茂肩衣ヲ脱ハシノ旨志世
是ヲ傳フ御三家御會釋アノ入御進上ノ臺ニ
テ後樂ニ御酒ヲ下リル兵服折紙出ス差引ノ役
人去ル私ニ曰。殿有云御代万治三年庚子正月
御酒下リル間敷。御酒ヲ下リル自今以後
中議足スト云々

○五日

元寬日記

補。將軍家御長袴ヲ召リセウニ白書院
御着座東廡山ノ諸院或ハ推僧正ノ面ニ淺草寺
智樂山王權現ノ社家日吉大膳別當最教院等獨
禮具外ノ諸院今小路民部卿中里等ハ惣礼

○六日

元寬日記

補。將軍家御裝束御白書院御上壇ニ御着座壇
上寺御礼御右ノ方御下壇ニ着座次ニ傳通院大
光院西一人一人宛御礼誓願寺本誓寺大養寺并壇
上寺役者二人右進物持叅一同御礼其後大原
間ハ出御御上壇ニ御着座獨礼ノ諸出家下壇
ニ於テ御礼右畢テ御納戸構ニ入御此間ニ獨
礼ノ諸出家退去時上下壇ハ御障子是ノ間下
壇ニ御立座諸出家諸神主一同ニ御礼ノ入御ノ
時御白書院御次ノ間ニ上野新田ノ庄徳川ノ万

徳寺比丘尼寺并其所古来、地下人知行作り取

大御所ヨリ御付ラレタル障御縁類、蹲踞

御礼又伊勢ノ某且千人頭右進物ツ前ニ置

一同ニ御礼右同座ノ御納戸構松戸除ニテ御

礼スル輩有リ然レ其其人定テ其後入御元

日ヨリ六月迄テ御礼ノ規式断、如ク御常家

ノ格式ニ定テテ、處ナリ

○七日

元寛日記

補ニ七種ノ糝ノ御祝儀有リ此事兼日ヨリ儒

者陰陽家察ノ博士出家等ニ御尋有リ仍テ記録

ヲ以テ是ヲ獻スト云ハ其説區々ニシテ一決

セズ又禁裏ノ御遣ハナシ、處、子ノ日

ノ若菜又七種ノ若菜ノ事書記ニ進セラル皆不

同ナリ故ニ世俗ノ用エル所ヲ以テ定テ計セラ

ル彼記文爰ニ誌スル

日本記ニ曰子ノ日ノ節會正月朔日子ノ日

政ハ内裏ニ於テ諸卿集リニ枝松ヲ面ニ持

テ元日辰ノ刻ニ神樂歌ヲ諡ニ政事有リ根

引ノ松ナレハ根引ト云レトテ子ノ日ト云ク

吾朝五ノ日遺記傳子ノ日初ニ用ユル

吾朝五ノ日遺記傳子ノ日初ニ用ユル

故正月朔日諸卿内裏ニ集リ觀喜會ト云
節會ヲ行フト云ハ
一七種ノ若菜ハ
人王六代醍醐天皇ノ御宇延喜十一年辛未
正月七日丹後院ヨリ七種ノ若菜ヲ供ニ是
始ナリ内藏寮等ニ内膳ノ司ヨリ正月上ノ日
是ヲ獻ス或曰七種ハ
粟小前豆也ト云ハ
右ハ九條殿ヨリ進セリ録也
一七種ノ粥ハ

人王五十九代宇多天皇ノ御宇寛永二年庚戌
正月十九日七種ノ粥ヲ獻ス是ハ若菜ノ事
非ス
右ハ陽家ノ獻ル所也
一薑良内傳ニ云七種ノ粥ハ不動明王ノ七把ノ
髮惡魔ヲ降伏スルト云
右ハ陰陽博士獻ル所也
一七種ノ糝糝ハ
正月七日糝ヲ食スル事正月朔日ニ雞日ト云
二日ハ狗日三日ハ猪日四日ハ羊日五日ハ牛

日六日(馬)日七日(人)日ト云人日ハ人ノ生
始リタル日ナルヲ以テ殊更五節句ノ第一ト
之ヲ是ヲ祝フ此日七種ノ糝ヲ食スル事萬草
生長ノ故也
右ハ一條殿獻セラル所也

一七種粥ノ事
昔天竺ニ佛性國ト云アリ其國ニ一人ノ大外
道有り大曇王ト号ス三界ニアリエル所ノ大
外道也佛神三寶王法ヲ穢シ妨ル其國ニ加璃
帝王ト云フ有り彼王大曇王ヲ責殺ス其靈人

民ヲ崇禮加璃帝王渠カ肉ヲ取リ還丹ト云フ
藥ヲ煉リ國士病有ル者ニ吞シ之皆若クナリ怒
○ニ病愈エ其コリ則ト豊饒也長命ナリ是ヨリ
○其藥續テ三國是ヲ用エリハ七種ノ糝ニ大曇
王カ肉身ヲ切集メ肉還丹ト為メ娑ト云ハ
故ニ七日ノ節句ノ初メトス或云七種ト云ハ
所謂芥菘等ノ繁華ハ御形ト云フスル
佛ノ座ニ是ヲ七種ノ糝ト云フスル
右ハ佛氏ノ沙汰スル所也
右家ノ記録 上覽有り具說遍ニシテ一決



セズ是ニ依テ 仰ニ曰七種ノ粥ノ事ハ異説多
シ世俗ニ用ニ来ルヲ以テ是トスヘキ旨 仰出
テ此仍テ世俗ノ式ヲ用ニ具外京都五山鎌倉五
山等ニ惣録司等御礼或ハ名代 御目見ノ次弟
座位等ノ事ハ音足利義満將軍ノ時定ノ置ル
所ヲ以テ定式ト 仰出リル十五日日月次御
礼ヲ儀ハ別ニ式法無シ

○十一日

補元覽日記 蒲生飛驒守秀行 初ノ名ハ藤三郎ノ後至蒲
下守志卿ハ 大御所ノ姫君ナリ秀行ノ死去
ノ母儀ナリ

ノ後御子下野守ニ掛リ座ニケルヲ 將軍家ノ

御前ニ召シ淺野但馬守長晟ニ嫁スヘキ旨ヲ仰出

○十九日 池田宮内少輔志雄 時ニ松平ニ稱從四位下ニ

叙 補ニ從任ニ

補 東武實録 是ハ池田三左衛門輝政カ三男ニシテ神君

ノ御外孫也

藤堂高次從五位下ニ叙セテ大學頭任ニ是ハ和泉

守高亮カ子也

○廿日

元寛日記

○補池田宮内少輔忠雄松平相模守光仲ノ父ニ淡路ノ須本

六萬三千石ヲ將ノ備前ノ岡山、於テ三拾壹萬

五千石ヲ賜シ其弟松平石見守輝澄、播州完栗

城七萬石其弟松平右京大夫政綱、播州赤穂

三萬五千石是ヲ賜フ但此西人ノ兄池田武藏守

利隆松平ノ御孫号ヲ賜フ輝政ノ父ナリ五十二萬石ノ

高ノ内配分セラル所也

○日一、神后顧病シ蒙リ其腹師茶屋四郎次郎

道晴洛陽ヨリ駿府ニ下向シ拜謁フ遂ニ所

神后京大坂ノ事御尋アリ道晴聊カ異變アリ高買

無為ノ化、誇リ酒茶ノ宴ニ耽リ且フ鮮鯛ヲ切リ

柏ノ油ヲ以テ煎燂シ又熱トノ上ニ蒸テ相懸テ其

佳味タルヲ嗜ミ嗽ク由是リ其演説ニ所テ柳原

内記請久シク能須以鯛ニ喉ヲ獻シテハ即テ右

ノ通ツ官厨ニ仰也御賞味ノ上田中ノ城ニ渡

御近邊ヲ御放鷹アリテ東燭ノ頃彼城迄還御ノ

所御腹痛見シテ片山典庵法印ヲ召テニ他行メ

其往所ヲ辨メ大時ニ萬病圓テ御服用落合テ平次

道次ヲ以テ東武ニ御病懣以告テ漸ク以典庵

田中ニ集リ御氣色尚蒙リテ

○廿三日 夜陰、落合小平以江府、着已登城、不
 台徳公忍予、御前、召、御病懣、故、問、玉
 日路次四十里、行程殊、箱根、坂、馬入、酒、勾、等
 八、激、川、越、了、十二時、間、未、了、賞、已、黃金、時
 服、賜、了、神、居、八、御、病、懣、微、驗、三、依、了、田、中、了、駿
 府、城、入、還、御、病、陰、落、合、道、次、帰、冬、ス、又、十二時
 台、徳、公、御、使、上、酒、井、備、後、守、忠、利、東、武、了、發、已、駿
 陽、策、了、揚、了
 ○廿五日

補元寛日記松平伊豫守忠昌秀康卿了、召、了、信州松平
 城十二萬石、賜、了、去年大坂表、於、了、軍、功、了、勵
 了、利、了、自身、若、戰、高、名、也、了、除、神、妙、了、由
 是、夕、御、感、有、了、次、松平、守、忠、良、了、濃、州、大
 垣、城、五、萬、石、松平、丹、波、守、康、長、了、常、州、同、城、三、萬
 石、了、轉、了、上、州、高、崎、城、五、萬、石、以、賜、了、水、野、隼、人、正
 忠、清、了、先、祖、了、忠、義、且、了、忠、清、難、波、了、功、了、賞、了、父
 祖、了、舊、領、了、刈、屋、城、二、萬、石、了、賜、了、書、院、番、頭、也
 ○同上今年正月中旬、比、白、了、伊、勢、躍、大、了、尊、早、了、諸
 國、神、躍、了、去年、了、神、躍、始、了、大、坂、兵、亂、有、了、其、御、了

大御所躍、事、聞、是皆天下、妖怪也、躍、
軍、是、捕、入、誅、以、由、彦、坂、九、兵、束、之、御、付、
共、力、同、心、大、勢、相、具、又、罷、出、之、事、定、り、
忍、難、止、り、之、事、如、何、事、出、来、也、
又、十、再、語、之、事、去、日、一、日、神、居、駿、州、田、中、狩、
之、玉、之、事、其、夜、御、不、例、同、廿、四、日、駿、府、
還、御、御、座、之、事、御、不、例、御、快、カ、ラ、不、近、臣、周、章、
ノ、宿、次、ヲ、以、テ、將、軍、家、ノ、注、進、ノ、或、ハ、駿、馬、ニ、鞭、
ヲ、御、様、肝、ヲ、言、上、ス、ル、事、掃、ノ、盡、ク、カ、知、レ、
將、軍、家、大、ニ、驚、カ、セ、玉、ノ、事、也、

二月小

○朔日、台、徳、公、武、江、ヲ、御、發、駕、晝、夜、行、程、ノ、急、カ、セ、
○二日、中、ノ、刻、台、徳、公、駿、府、ノ、城、着、御、直、
御、對、顔、ノ、事、神、居、ノ、數、七、旬、ニ、餘、リ、俄、ニ、重、病、
罹、リ、再、會、期、ス、ハ、カ、ラ、ス、ト、欲、シ、然、ル、來、リ、玉、ノ、
斯、リ、如、ク、迅、速、ニ、大、特、脱、何、事、以、テ、是、候、知、レ、
之、事、ハ、台、徳、公、其、感、情、之、理、ハ、候、事、也、御、退、立、
是、日、晝、夜、憂、倍、ニ、玉、ノ、寢、食、之、事、亦、不、向、御、
療、養、ノ、事、ヲ、議、シ、玉、ノ、諸、州、ノ、大、小、名、ヲ、召、目、無、

小雖に御不豫より由り調行領國領邑、寓居スル
堪大段下駿府へ来親見御容辨り窺つ云々
東武實録
補、二月朔日、將軍家江戸御發駕夜十日、
御駕の馳りし翌二日駿府に御着、大御所
則御對面有り此時、御氣色甚々御快然たりし
御加心、將軍家御悦、大形けりし翌三日京中、
名り得たる醫師を召集し御療治の許定有
り御業つ差上りし日、午到中、諸寺諸山有願の
高僧責僧神職陰陽寮迄、御祈禱の儀、仰付ら
る皆丹誠ヲ抽ス

○三日、阿倍四郎五郎正之朝比奈涼六郎正重
台徳公へ拜謁し加藤忠廣家中、事統ヲ鎮西諸侯
の事業政務ノ善惡ヲ言上ル是ハ忠廣幼稚ニ去
春以來肥後ノ盜案計其在國ニ一昨日駿府に歸參
スル所也
○十四日、松平伊豫守忠昌ノ賓客宇津宮三郎右
求門朝来、西公へ拜謁ス、命アリト雖、去
夏以來腫物今以テ乎愈也、命アリト雖、去
ル所也、御扶助外、黄金百兩米千俵ヲ授ラレ
○傳、行日是日、寛永二比丑迄、海歳米千俵十

百金ヲ賜フ所翌日廣延月廿三日朝未發之振子
左近僅二歳永由越前家ノ陪臣列於
○廿九日水野善兵衛宗勝享年六十五歳
○京伊坂倉勝重カ羽書到來ニ神君御病懣大漸
○密詔ヲ趣西三條源橋是ヲ傳フ由注進ノ執事此
昔ヲ速カテ高瀬ニ達スルヲ知ルニ始メ
○

國朝大業廣記卷之百四十二

元和二丙辰年

三月大至五月

○四日佐久間民部少輔勝次大勝亮享年八歳

武江卒ス

○五日神君御病懣殊々重シテ御方ヲ召テ

上總介忠輝ハ其生質剛勇ニ自他稱譽セシカ難
波ノ役戰功諸將ニ超ハ流ト欲ル所ニ夏陣ノ軍旅

二 懈 和州邊 徘徊 敵ノ旗ヲ見ルル 怯
弱ノ至リ 磨ッ 無キリ 何ヲヤ 將軍家ニ
定テ 志輝 異心ノ企アル 歎ノ由 疑有ハ 親ノ身ヲ
以テ 其心 慮計 難ク 覺束ナシ 况ヤ 兄弟ニ 於テヤ
刺ハ 長坂 血鎗カ 弟ヲ 誅ニ 其子 細テ 告テ 是又 過
分ノ 慮外 將軍家ノ 憤是アル 所也ト 大ニ 怒
リ 玉ニ 御涙ヲ 浮ヘル 茶阿ノ 御方 免角ノ 應答ニ
無ク 故然トシ 落涙 教行ニ 及テ 退去シ 神君ノ 御
不例 予 御憤ノ 趣 委細ニ 書認メ 越後 志輝 卿ニ 送テ
シ 卿大ニ 驚キ 越後 高田ヲ 發シ 駿河ニ 到セラル

○八日

東武實錄

補 御手洗 越前守 卒シ 享年 八十四 歳

○十五日

松下石見守 重綱 波ノ 軍功ヲ 賞セ
ラレ 五千石 加恩ニ 玉メ 本領 共ニ 二万石ト 云

元和 八生 戌 常州 小張ヲ 改
メ 新州 島山ノ 城ニ 賜テ 改

○十七日

禁闕ニテ 陣ノ 座ノ 宣下 行ルニ 御
神君 太政大臣 御轉任 從一位 叙セ 玉メ 上卿

日 野權大納言 弘資 卿 職事 廣橋 頭 辨實 勝ト 云

○十九日

補 蒲生 下野守 忠 郷ノ 家人 蒲生 源左衛門 郷成

元寬日記

源嫡子源三郎郷吉其弟源兵衛郷吉兩人同家
 人所野長門守幸和ト公事ニ及テ訟出リ是ニ同
 所野家ニテ分ル神君ノ御病問ニ委細御礼
 明ヲ遂テ所野雌伏ニ是ニ同源三郎兄弟并
 蒲生忠右衛門等ニ恩禄ヲ賜リ又先年蒲生カ
 家ヲ退ニ蒲生忠右衛門等ノ帰參セシノ初ノ如
 ク三春ノ城ヲ賜リ外池信濃ノ帰參ヲ御免
 有リ是ニ於テ蒲生家中静謐ニ此儀御案鑿ニ事
 結志郷父秀行ハ神君ノ御塔ニテ忠郷ハ御外
 孫ケルカ故也

○日五日 松平外記忠實ヲ御卧榻ノ邊ニ召テ
 汝盜ニ中山道ヲ歷テ城州伏見ニ至リ加審スハシ
 是深キ慮リ有リテ命スルノ由是ニ於テ不日ニ
 忠實伏見ニ登リ元和四年ニ在衛ス
 ○日六日 水戸侯以輔臣中山左助信吉即ケ由左衛門家範
 子カ從五位下ニ叙シ備前守ニ任ス
 ○日七日 神君大相国ノ命命リ坂城ニ於テ受
 カセ玉ヲ諸臣皆直垂ヲ着ス台徳公ヲ始親戚諸
 侯譜代ノ臣悉ク拜禮ヲ遂
 ○日九日 勅使廣橋而三條西重相官勢外記返御

饗應アリ 台徳公上壇東面 御着座西傳 奏
中壇南面ノ座ニ尾州參議中將義直卿遠江參議
中將頼宣卿水戸少將頼房卿北面ノ陪侍セリ 獻
盃リ次第初獻 台徳公次ニ尾州侯次ニ廣橋兼勝
卿次ニ遺洲侯次ニ西三條實條卿次ニ水戸侯二獻
ニ 台徳公次ニ遠州侯次ニ西三條次ニ水戸侯次
ニ 廣橋次ニ尾州侯三獻 台徳公次ニ頼房朝臣
次ニ兼勝卿次ニ義直卿次ニ實條卿次ニ頼宣卿十
リ 台徳公ノ御給仕ニ細川大内記志利井伊掃部
頭直孝酒井下総守忠政鳥居讃岐守ナリ 志利直孝

ハ瓶ヲ執テ酒ヲ行セリ 諸大夫陪膳リ成テ西傳
奏御三家ノ陪膳ハ西尾丹後守忠永佐ニ木兵部少
輔義足朽木民部少輔植綱一尾淡路守通春三好備
中守 一色左兵衛範勝也時ニ神居ハ永井右
近大夫相伺^{ユエン}所以ニ範勝一人無位官ニ侍從諸
大夫列ニ陪膳スルナリ 奈何 鈞命ニ曰一色ハ足
利將軍家ノ門業世ニ賞既ノ家也 諸大夫タリニ
ル時ハ却テ其家ニ不相應ナリ 宗無官位ニシテ設
タルハ是夕規模トスルニ未云云 是レ因テ烏帽子
素袍ヲ着ニ是ヲ勉^ニ 其ノ事ハ

補 武家訓談 大猷公御代寛永ノ始ノ酒井讃岐守忠勝

ツ以テ一色ノ高家故 神君ノ御時諸大夫不相

應ノ由却沙汰有リト雖 凡五位ノ叙スルハ當時

ノ規模也 樂力心底ニ望ナラシメ命セラルヘシ

ト也 是ニ於テ範勝モ 恩言ノ辱ヲ拜シ從五位

下式部少輔ニ叙任ス然レモ武伎ヲ奉節スハ時

事ヲ願ヒ高家ノ列ス入ラスノ御使番ト成ル其

子右馬助範規御花畑番ヲ勤メ五十歳ニ至ラスノ

病死シ其子左兵衛範風モ早世シ範風カ子長十

郎範永 母ハ女倍丹波守カ女

嚴有公ノ御代九歳ニメ早

世ニ禄二千石收公セラル家断絶ス一色式部ト

云ハル浪人有リ世ヲ惑フ事有リ仍テ爰ニ記セ

ル也

己ノ刻ヨリ来リ刻ニ及テ御酒宴諸侯ニ至リ

台徳公ノ御盃ノ頂戴ノ間囉子三番ヤリ所謂高砂

大觀世 吳服 同三 善岩 大觀世 ト云云 台徳公ヨリ西傳

葵ハ美服三十領 黄金五十枚 宛リ賜リ外記官勢ニテ

白銀時服ヲ典ラシ

補 東武量禄 御昇進ニ依テ禁裏ノ獻物有リ

當今江 白銀千枚

院御所 江 白銀三百枚

女院御所 江 白銀二百枚

女御 江 同断

黄金十枚

黄金五枚

黄金二枚

補 是日 先右大臣ノ上表有テ敢テ官階ノ進

レ 一ヲ欲シ玉ハスト也

伊達政宗去レ七日仙臺ヲ發シ今日三嶋ノ驛ニ至

リケルカ駿府ニ相詰御病肝ヲ伺ヘキ由老臣追使

上卿

職事

日卿大納言

宣旨 大外記

ヲ以テ是ヲ達ス

○日七日 或曰 八日 山子庵法御ヲ召テ御薬一貼

ヲ調合シテ本多上野介躬ヲカテ是ヲ藥ニ御服用

ノ所御烏飼鹽ヲ進シカハ 忍テ皆吐セ玉ヲ斯テ

台徳公ニ 申有リシハ 御不例ニ始ヨリハ御命爰

ニ 極ルヲ測リ玉ニ御薬御服用有ヘカラスト雖

氏 大樹殊ニ外御心ヲ憚付ルヲ上聴ニ及ハ

二 御孝心愈止ニ難ク御服藥アリシカ新ノ如ク

御胸中ニ納テシハ最早無益ナル由ニ是ヨリ

御療養ニ及ズ御卧榻ニ 子ヲ禁セラレ近寄

ナリ得ス無類ノ寵臣本多佐渡守末武。ラ老病、
況ラ駿府ニ来。一能入ト云、

○或曰 台徳公与庵法印宗哲ニ御療養ノ事ヲ
議セ玉。所渠ノ告。當正月一日ノ夜御疾涎御
胸ニ塞リ危。公至セ玉。所。御薬ヲ獻シ。四
日ニハ聊カ御快癒テ田中ヨリ還駕アリ。後御腹中
ニ塊アリ。ラ時痛セ。ラ。是。ラ。十百虫也。トノ
日。万病圓。ラ。召上。ラ。此。賤臣。是。ラ。嘆。メ。万病圓。ハ
大毒ノ劑也。御積塊。ハ。除ス。ノ。御元氣ヲ傷。ハ。シ
ト。諫言。ヲ。遂。ト。雖。ハ。御許容。無。ト。云。、。爰。ニ。於

テ。昵。近。ノ。族。ヲ。召。メ。彼。丸。藥。數。日。御服用。ト。雖。ハ。微
頻。無。キ。上。ハ。是。ラ。止。ラ。用。ヒ。テ。ハ。ハ。一。句。レ。ト。諫。靜
ス。ハ。キ。由。ニ。台。徳。公。ハ。命。重。キ。ト。雖。ハ。皆。擬。滯。ス。是
○。ニ。於。テ。与。庵。ニ。台。命。下。ル。故。ニ。神。君。ハ。再。ニ。熟。諫
シ。奉。ケ。レ。ハ。甚。ク。御。旨。ニ。應。セ。ス。信。州。諏。訪。ノ。禰
セ。ラ。ル。元。和。四。年。四。月。十。四。日。台。徳。公。渠。カ。熟
賜。知。テ。諫。ヲ。成。ス。深。志。ヲ。憐。テ。諏。訪。ヨリ。召。返。シ
補。ニ。是。月。伊。達。遠。江。守。秀。宗。駿。府。ニ。参。勤。以。テ。神。君
上。ヨリ。御。股。指。願。宗。御。馬。底。毛。ヲ。秀。宗。ニ。賜。以。テ。是。日
○。伊。達。遠。江。守。秀。宗。駿。府。ニ。参。勤。以。テ。神。君

○朔日 堀丹後守直寄ヲ寢殿ニ召テ難波ノ軍功
 且ツ平日ノ武備ノ御称賞ノ上吾薨セシ後國家擾
 乱セハ藤堂ヲ以テ大樹ノ一陣トシ井伊ヲ二陣
 トシ汝ハ兩隊ノ間ニ屯シ其横ヲ撃テ是ヲ敗ルヘ
 シ忠義懈ヘカラスト 嚴命ヲ蒙ル直寄頓首ノ退
 リ

○二日 執事ノ密旨ニ依テ伊達政宗駿府感應寺
 至リ今日登々常ス時ニ 神后御側ニ召テ遠味
 ヲ懽ヒ玉ヒ補ニ勤ラ能ク 將軍家ニ奉仕御遺物
 トノ清拙ノ墨蹟ヲ賜リ是ヲ頂戴ヒ涕泣ノ退ク

雜話筆記
 補ニ先臣本多佐渡守正信同上御分正純父子

下可ル、其趣ニ云ク

- 一 御遺狀之事
 - 一 死骸ニケ年久御ニ可置供事
 - 一 二ケ年過日光真院ニ堂建立ニ位死骸深ク隱可置事
 - 一 死跡以後將軍之心不可違事
 - 一 吊之事江戸増上寺ニ而可改ハ事
 - 一 露命之事七十歳ニ餘リハ故一毛一節不ハ情事
 - 一 將軍兄弟宗家人仕置遺置ハ事疎意之至也况
- 軍法政道之事不及遺言也

右之旨將軍江可中者也

卯月二日 相國家康

本多上野介より

かりのりては流とありかゝるゝの儀

風とすしは

一 今行々約をては流致す一所致あり一人は名

二 新方を事

一 今行々居職伏見下然但下後後日、お汚事

一 今行々院為名守而任ををてて全一錢半

一 今行々法改方而及志を名也

元和二年

卯月二日 相國家康

卯月二日

○三日 勅使院使駿府より發駕セラル

補 東武實録 歸洛道中傳馬賄賂等原日ヨリ東海道ノ城

持ノ面 命セラル 所 於テ 馳走ス

○東武實録曰 神君御不例ニハ在國人大小名

皆参リ集ル所 越後少將志輝朝臣ハ今以テ上

州勝岡斎勝佐次右衛門ト云テ民家ニ蟄居セラ

レ是カ最モ御勅氣ノ身 睥リ多シト雖モ三嶋

是日三日書茂書頭水野
隼人正忠清先祖ノ志義且
シ志清カ難波ノ無切ヲ賞
シ父祖ノ舊領參州赤屋
ノ城北二百石ヲ賜フ云
七千石

蒲原ノ邊ニテ来リ蚤ト云 御病休ヲ伺度旨本多
上野分ニ據テ願ヒ玉フ 台御公内ニテ其意
任スハト御下知アル工ハ忠輝悦テ三萬
ノ驛ニテ微行シ爰ニ滞留セラルト云
○四日 燭ヲ乘ノ後 御卧榻ノ邊ハ石川主殿頭
忠總ヲ召テ昔汝ニ恩遇ヲ施シ忘レカラス殊ニ
昔年汝カ外祖父ニノ養父ヲイレ日向守家成沃期
ニ其嫡孫彈正補長門守アルヲ以テ汝カ實父大
久保相模守 彈正康通カ知子家成カ跡職ヲ賜ハラレ
廣哉ニ汝ヲ石川ノ家督トセンイヲ辞スルイ屢ナ

リ然レハ吾慮ル所以アリテ汝ニ彼家ヲ嗣レム向
後益々大樹ハ忠勤ヲ勵スハキ旨 御遺命ヲ蒙リ
リ其叔父大久保權右衛門忠為補七郎右衛門忠
總大叔也正嗣ヲ召テ年来ノ軍忠ヲ仰出サレ先年
忠總カ領知濃州大垣ニテ新田ヲ開發セシトスレ
時其事成カ 上野ニ建ヌハニ新田ニ別邑ヲ添テ
忠為ニ壹方石ノ地ニ及フト云フ此是ヲ授カハハ
由リ論ハリ汝厚恩ヲ忘レズ弥忠ヲ竭ヒ一大樹ニ
仕フハレトノ 上意ヲ蒙アリ二人共ニ感涙ニ咽
テ退去ス

補志為、當時權右工門山城守豊前守伊勢守
家節是也

○五日、板倉豊後守重政、桑山左衛門佐一晴、市橋
下總守長勝ヲ召テ去夏陣ノ功ヲ賞シ、采色五千石
免シ、加恩セラルル別所孫次郎友治故アリテ、兩州ニ
漂泊ス去是軍切ニ依テ免許セラレシカ、是亦召
ケ二千五百石ヲ与ラシ、猶村孫七郎、大和十市郎
ノ内五百石ヲ加ヘ玉フ

○七日、神后ノ姫后蒲生秀行ノ後室、淺野但馬守
長晟ニ嫁シ、今日入棄アリ、是ハ神后御病懋遂日

重カ成ラセ玉フ故ニ、嫁礼ヲ急ム、命アリ、
依ナリ、

○頃日、神后ハ疾既ニ篤シ、扁鵲ト云ク、
療治スルコト得ハ、チウハ天下ニ平治スト云フハ、
存着スハ成ルカウ、ス諸侯ニ隨ルコト者、
ワカウ虫馬ニ譬ヒ、親戚世臣ト云フ、
ハ忽チ征伐アル
ハシ、努メ小敵ト云フ、
大徳公ハ顧命ヲ授ケ、
玉ヲ焚メ、大小名ノ人
物ヲ論セ、
加藤左馬助嘉明、
太閤重恩ノ臣ト
難任、
本因卷河沙ル、
上ハ秀吉在世ノ時ヨリ、
常家ハ

志ヲ竭ケルト欲スレハ此後ニ疎意ナカルヘシ弟
一律義ノ質ナレバ隨方哀憐ヲ加フルヘシ然レ
氏卿ノ事ヲ心留メ根ノ氣象ナレハ其旨ヲ
覺悟セラレハシト御疑アリ台徳公御兼股ア
リケルカ左馬助ハ度量狭ケレハ勢ニ叛逆ノ心ハ
有ハカラウシカト直フ神君ハ其心得不可也
譬ハ踊ヲ催シテ少人成レ今様ヲ謔ル者最モ
堪能ナレハ老人迄モ浮立テ踊躍スル者ナリ乱世
ハ何者成レ勇烈ヲ撰テ將帥トス假今其人辞
スレト固レ衆人推テ是ヲ奉用スル間左馬助カ

度量狭トテ油断セラルヘカラストテ寧ク御
遺戒アリト云

補ハ大樹駿府御到着ノ日ヨリ御對顔ノ幕
ハ近侍ノ者拂ク避ラセテ只御面々度ハ
御側談アリ大樹ノ上意ハ神君日比御側
近ク召仕ハレ談話ノ御相手セシ者共召寄ラレ
假令ハ神君御身後ノ事而已ノ御意ヲ喻シ示
サセ玉ワ凡免ヤ南外若シ紛レリセ玉上テ外事
ハ尊慮ヲ移セテ如ク挨拶ヲ告ノ御心
ノ慰セ玉ハ御様ニ御伽スヘシト御直言アリ

レ各兼リ其殿ハ御意セラエ無ク先頃ヨリ
告合セ御鷹御乱舞ノ事杯ヲ難談ツ告セレ一向
御食着ナリ却テ御機嫌ニ應セラル御様子ニ見
入リセ御此告ス夫海僧正御側ニ是ヲ兼
引夫ノ異國本朝共ニ僧俗ニ限ラズ大悟明哲ノ
人ノ豫メ死ヲ知ラ外事ヲ抛テ身後ノ事而已ツ
告外有ル不足ニ事ニ神君ニ之今般御不例ノ
始ヨリ兔角御快然アレシヤトノ趣ヲ果ナト
ハマ度ハソ御意ニテ御身後ノ事而已ツ告ニ
喻リセ玉フトアレハ大樹ニ思召當ラセ玉

フニヤ其後ニ兔角ノ上意モ無ク一向テ御落
涙ニ及セラレ天海ヲ始御前伺候ノ面ニ涙リ
賤レト也

○十四日或曰十補神君ノ不豫ヨリ累テ勝
依是諸州ノ收福ヲ百ヲ喻シ玉フハ吾先病甚メ意ニ
命既ニ且暮ニ迫レリ當時大樹海内ノ政務ヲ
執任ハハ後事ヲ以テ憂トセズ然ルニ被政令通ニ
違テ即チ不諸將躬ヲカウ國柄ヲ執ハシ天下ハ一
人ノ天下ニ非ラズ天下ノ天下也奈何ヲ恨ツ泉下
會ニヤ早ク封國ニ帰ラ大樹ノ命ヲ待テ来ハ

レト乃財貨ヲ頒テ賜リ各領國領邑ニ歸シ至テ群
候慈悲襟ヲ濡シ退ク兼テ大御所薨御アリハ必
ニ五年ニ東武ニ抑留セラルヘシト思惟タル所ニ
懸隔ノハ顧命ノ蒙リ實ハ聖文英武ノ徳ニ歸リ毫
厘ニ害心ヲ含ムト云々

○或曰今十四日福嶋左衛門大夫正則ヲ召テ歸
國ノ暇并名物ノ陶器ヲ御遺物トシ賜シカハ正
則ニ涙ヲ垂テ狀然タリ其時神居ノ御誕ニ頃年
終者アリテ大樹ハ足下ヲ疑ニ在國ヲ許サ
レズ永々滯府ニ及フ然レ氏_ト盡ヨリ異心ナキ

炳然タルユヘ今度大樹ヲ曉シ漸ク歸國アラ
レシヘキニ變ス早ク命ニ隨テ二三年ニ緩ク
ト藝州ニ在テ鬱氣ヲ散スヘシト有レハ正則首
ヲ領テ頻ニ涕泣ノ詞ヲ發ス此ノ時_ト至ス爰
テ_ト於テ新ノ如ク命セラルト雖モ大樹ハ憤
ヲ含メルト有ラハ歸國ノ後逆意ヲ發スルニ其
心ニ任ヘシト宣フ左衛門大夫聲ノ揚テ悲淚
斜ナリ又暫ク_ト於テ吾ハ何ト云ハレト本
上野分_ト尋ナセ玉フ所ニ正則事大問_ト未聊也
疎畧ノ念ナレ唯今_ト御誕ニ情付付者報_ト奉ル

改言上シケレハ 神后ハ最早ナリト事漸ナリ
正則カ其一言ヲ聞レ為ニ示レノ詞ヲ發スル由
仰ヲ蒙リ福嶋依然トノ退去ス奈何ナル賢慮
ナルニヤ
○重テ 神后ハ 台徳公ハ 謂テ曰天下ノ政事卿
モ邪曲ナカルハシ 嚮ニ 諸國ノ侯伯ニ告ル如ク
大樹ノ政道違フ事アラハ 各國柄ヲ執レシト云キ
自然海内ノ侯伯逆謀アリテ 冬 勤セリル時ハ 最初
顧命セシ尾張遠江水戸ノ三家ヲ率テ出馬セラレ
早速ニ征伐ヲ遂ラレハシ 彼三家未夕 却冲也 大樹

予カ為ニ憐憫アレト云々 次ニ 義直賴宣賴房ノ三
后ハ 示カ曹 大樹ニ任ハ 或ハ 戦役ニ從ヒ 或ハ 左
右ニ 給仕シ 只 大樹ノ命ニ 隨テ 背テ 無レハレト
御説有シカハ 台徳公ヲ 右ノ 三后各 泣歎シテ 退
去セラレ 且 又 成瀬集久 正正 成本 藤帯ノ 直次ヲ 召
テ 汝等ヲ 義直賴宣カ 輔佐トスル 所以ニ 義直去リ
後 能ク 輔翼ヲ 功ヲ 竭テ 皆ニ 西 卿 卿心ヲ 示レハ
ナリ 欲ニ 玉ノ 在リ 若クハ 西 卿 喜心ヲ 快ニ 示
昔 黄泉ノ 後に 誅 得テ 勅 發スル 由 止 意ニ 預レ
ト云々

○十五日 神后都筑久丈夫 其比御綱戸ヲ召テ三
池ノ刀久シク裁断セリレハ彦坂九兵衛光正ヨリ
科人ヲ得テ是ヲ斬テ其又心ヲ言上スハ寸首 御
直ニ命ヲ蒙ル故御腰物ヲ携ヘ御次ニ退リ所ニ
再ニ呼返リレ罪科愆ニ死ニ究ニ者ヲ吟味ニ裁断
スハシ死罪ト究クル者一人ニ無ニ於テハ必ス様
スニ及ハズトノ 御説ヲ入幸ニ極罪ノ者有ニ付
テ久大夫早速犯科人ヲ光正ヨリ請取テ是ヲ裁断シ
御刀ヲ持参シ 御直ニ獻シ實ニ雄劔トハ是ナケ
レ掌ノ中ニ聊ニ覺ナク土壇ニテ入テ破引アル旨ヲ演

説スル所甚ク御機嫌ニテ是ヲ御手に取セ玉
二三度振セラレ以良カヲ以テ予孫長久ノ神ト仰
カルヘシトテ御鞘ニ納メ 命ニ依テ御枕ニ在
御腰物ト取替ヘ置ル長ク計尺貳分半ニ以テ莫那
之劔ヲ摸之ヲ中屋女傳所持ト之ヲ彫刻ニ送致赤銅
鶏ノ御目貫ニテ後代ニテ以能ク御神殿ニ納ル所
也
○十六日 御病床ニ邊ニ秋元但馬守泰朝板倉
内藤正重昌松平右衛門大夫正綱柳急内記請久晝
夜忍尺ノ切符ヲ竭所ニ納記ヲ召テ頃年台教

帰依ニ天海僧正ニ師壇ノ盟ニ深ク山王ノ神道
ヲ慕フ江ハ天海卜約ニ靈ヲ東照権現ト崇ム
ハナカニ當國宇度郡久能ノ山中某ノ地ハ清浄ヲ
ルニ天海葬事ヲ掌リ恒ヲ収ムハシ波山ハ天
塚ノ地武田信玄カ領分五州ノ内五ヶ所ノ要城ノ
具一ナレハ府城ノ本丸ト常ニ思ハリ東國ハ親戚
世臣ノ討邑多クハ乱リ難シ西州ハ外様ノ候
伯ノミニテテ勤クハ量ルハカラス是ニ依テ廟
塔ヲ南向ニシ汝領知八百石ノ上ニ千石ヲ加恩ノ
祭主ニシ且ツ神祝三千石ヲ掌リ其外貳百石ヲ

以テ各五十石ヲ宛行ニ僧侶四人ヲ置テ平日日夜
ノ修法勤行懈ハカラズト重キ御遺命ヲ蒙
上ニ
○十七日太政大臣從一位前征夷大將淳右衛
大將淳和等學西院別當源氏長者家康御齡七十
有五歳ニシテ薨去アリ
補東武實録既ニ薨去ノ期臨行本多杜野介ヲ召テ
大樹松ノ下召被セテ又撫用ニ由リ御説者
行ハ薨去ノ後武道ヲ儀忌ナシ也玉皇ノ御様
大樹ノ下告ハ付昔林御遺命ニ其儘ニ神去

ツマシ玉ト也時神原内記カ膝ヲ恐レナカ
ウ御枕ト成レ玉ヲ住古ヨリ關東ハ是ヲ以テ治
リ難キ国風ヲ以テ然ルニ国士能ク勇武ニ長ク提
リ以テ幕府ヲ武陽ニ定メ神靈使リ照レ玉
ハニトノ事ナリク歟
台徳公ヲ始家門地臣御旗本ヲ諸士公謂及ニ以
方民哀勵ノ是ハカトクハ譬ナク無^ニ夜^ト入^リテ蒙^ル極^ク久
能^ク山ニ送^リ奉^ル本^多上^野久正純松平古衛門大夫
正久後正細秋元但馬守泰朝板倉氏膳正重昌神魚
内記請久後照久蒙^ル極^ク供奉ス且^ク台徳公ノ

御名代士井大炊頭利勝尾州美直卿ノ名代成頼集
人正正成遠江頼宣卿ノ名代安藤帯刀直次水戸頼
房卿ノ名代中山備前守信吉等蒙^ル極^ク扈從シ久
能^ク山ニ至^リテ蒙^ル極^クツ收^メ奉^ルト云々
補^ハ是^ハ皆^ハ蒙^ル極^クノ御遺言ニ依^テ行^ハ也以外他人山中
東武實録
ニ入^リテ得^ルス神君薨御依^テ行^ハ諸侯大夫國士
ヨリ駿府ニ群參ス此度諸大名村々先^ニ江戶
赴^リカシメ諸国々太平ヲ聞玉ヲ後朱年帰国ノ
暇ヲ賜^ハハ^シテ^ハ中^ノ由^リ諸人推察ス先^ニ江戶
此旨ヲ存^ル所^ニ諸大名各駿府ヨリ直ニ休暇ノ

賜り歸国スハキノ由土井大炊頭利勝ヲ以テ
命セラル利勝御旨ヲ趣リ諸大名ニ傳フ衆是
リ聞テ公以御政道廣大ナルヲ感稱セリ
○世傳ノ神后御馬ノ舍人并出入郎右衛門
弱歳日ヲ奉仕セ教度ノ戦場ハ御馬ノ轡ニ付
テ從テ是夕御旨ニ應ニ有難キヲ命テ蒙
テ一ヲ感激ニ眞泉ノ供奉セリ一ヲ欲スル由是長
群柳助九郎ニ達ニ其詞ヲ未夕畢リルニ忽チ
自裁スト云々
○亦五日台徳公久能山神后ノ茶亭ニ諸シ玉

ノ還御ノ刻御山下柳魚内記カ宅ハ入御御膳
ノ獻ス土井大炊頭利勝永井信濃守尚政侍座ス時
ニ御誕日ハ先考若手ノ世臣ノ内汝カ登リ撰テ
重テ顧命ヲ蒙リテレハ向後聊ニ世ヲ御諒畧
アルハ其ラスト云々ト總ノ神廟經營等天海ト内
記相計テ是ヲ沙汰ス
補元寛日記
補二十五日將軍家久能山ト御冬詣有リ御
廟御再拜ノ後久能寺ノ住持ヲ召テ此山ノ縁起
ヲ御尋在リ僧答テ昔久能山ハ駿河國有
度郎ニ有リ故ニ有度山ト名ル昔地推布天皇

ノ御宇、高良子久能山云ク人有リ駿州有度山
・入テ歎ク獵ル海岸迄キ所、一古杉樹有リ光
ル事朝日ノ如シ久能是ヲ怪シニ家人ニ下知メ
射落リシノ是ヲ見ルニ長五寸餘ノ闇浮檀金以
千手觀音ノ尊像ナリ久能奇持ノ忍ヲ爲シ一寺
ヲ平地ニ建テ件ノ像ヲ安置ス或夜久能夢ニ
ウク先僧来テ云ク我ハ是補陀落山ヨリ爰ニ来
ル善哉ニ、汝我ヲ安置セハ我能ク衆生ヲ化度
セント久能夢覺テ其美驗タル事ヲ知ル山ヲ補
陀落山ト号シ久能寺ト称ス久能ノ副基ニ依テ

也其後聖武天皇ノ御時行基菩薩此山ニ入テ古
キ楠ヲ伐テ千手ノ像ニ軀ヲ刻作リ像ヲ新像ノ胸
ニ納ラシ此寺ノ宝物餘多是アル中ニ源九郎
義経自愛セリ薄墨ト云ヘル笛是ヲ寄進セリ嘉
祿年中ノ回録ニ被留焼失ス又聖一因師蒙科初
ハ此山ノ堯辨ヲ師ト頼ニ台教ヲ学テ其後來、
入テ佛心宗ヲ傳ヘ帰朝セシムルノ時瑪瑙ノ錫
鼓ヲ久能持ニ納ラシ由演説ス事ハ詳ニ以書
○柿魚家傳ニ内記清久息過淺カラナル故ハ
御神領三千石ヲ支配ニ茶奠ヲ掌リテ元和

三年丁巳八月廿八日豆州北條ノ藤管ニテ盡寝セ
レ夢中ニ大権現ノ御示現ヲ蒙テ清久ヲ改
メ照久ト稱ス同四年戊午五月十三日從四位下
ノ叙ヲ大母記ト成レ同年六月廿四日從四位下
ニ轉位ス同八年壬戌四月神原ノ清和源氏也
綸旨口宣向後源姓ト記ス入ノ御誕ヲ蒙レ
同年六月廿日從二位ニ叙ス武臣ニ召テ拜スレ
人ノ柳管ノ家門ニ非ノ遊^{タニカ}遊^カノ事也○補
御時ニ伊勢ノ系至テニ從二位ニ叙セラレ内記
ヲ從三位ニ叙セラレ又從二位ニ叙セラレ同年
八月十二日冬内昇殿ノ遂レ正保四年丁亥八

月七日享年六十二歳ニ卒ス照久ニ一女五男
了リ長女ハ一色右馬助範視ニ嫁ス是賤臣木村
ノ祖嫡男ハ越中守照清御譜代拾^ニ列シ交代寄
母也護^ニ二男左馬助以重御書院番三男大膳久政
御先手御弓四男左京久近中興御告五男孫十郎
久通七郎小左衛門入^レ後下稱スト云^レ神魚補
久ハ參河以末ノ御譜代ニ^レ信長七郎右衛門
臣ノ列ニ^レ信康君ハ屬位ニ^レ信長七郎右衛門
同崎^ニ信康君ハ屬位ニ^レ信長七郎右衛門
味^ニ以^レ生^レ害^レ難^ク御家ヲ^レ立^テ去^リ久能
雖^ニ崇^ニ何^レ比^テ無^ク人^ノ故^ニ御家ヲ^レ立^テ去^リ
死^ス不^レ渠^ニ拜^テ無^ク人^ノ故^ニ御家ヲ^レ立^テ去^リ
成^リ其^ノ子^ハ越^中守^照清^久能^居任^時久^能居^任時^久能^居任^時
成^リ其^ノ子^ハ越^中守^照清^久能^居任^時久^能居^任時^久能^居任^時

○東武實録云神后亮御ノ後七ケ日ヲ歴テ
台徳公ヲ上総守忠輝朝臣上州藤園ニテ歸リ百
ケ日ノ後武陽ノ冬勤アセテ命セラレ夏
州三嶋ヨリ藤園ノ歸ケルト云々

○又曰忠輝朝臣是ニテ駿府臨海寺ニ寓居ヒテ
乙カ台徳公ノ御命ニ依テ當ホ五日彼地ヲ發
○藤園ニ至リ民家ニ五十四ケ日寓居シ玉フト
補鶴毛衣神后亮去下ニ幕府ヲ始メ御連
枝及諸侯群士ニ至テ暗夜ニ光ヲ失ケル如ク
更泣ク聲聞キ盈テ悲歎所淚袂ニ蘇ル中ニ上
總守忠輝朝臣ハ終ニ御城ノ出仕ニ無ク空
夕籠居テ寐テ本意少ク塊枕ニ卧シ玉ハ今月廿日
幕下ヨリ丸鬼長門守守隆ニ年々ト忠輝朝

臣ヲ嚴ク警固スレト云々此時世人何故ヤ
ラシト其實否ヲ知スト也同亦五日大樹未
駿府ニ御在留ニテ久能ク御靈前ニ御拜詣
折柄忠輝朝臣ハ本多上卿外正純ニ使リ大樹
ノ尊候ヲ窺セラル正純謹テ告ケルハ愚臣等カ
計ニテ以テ窺難ニ願フハ増上寺ヲ頼セテ
御記言アルヘキ歟ト云々

○廿七日 台徳公駿府ヲ御出雲ト云々

○廿九日 武城ニ還着シ玉ヲ御當家累世淨土
宗門タルヲ以テ武江三縁山増上寺ニ
老考ノ

御靈屋ヲ経営セラル

補ニ法諦ヲ一品徳蓮社崇譽道和大禪列ト號

ニ奉ル

筋飾金銀ヲ鑲メ結構崔嵬ク一日本ノ因數ヲ表メ
疊敷六十六疊ト云々且増上寺ニ於テ末月中旬
大法會ヲ遂行ルハ其間諸國ノ僧侶計八日
參詣諷經スルヲ措ク觸促ニ玉物然ル所ニ蓮宗
ノ疑ハ大相國ニ御拜儀増上寺ニ決セハ是
論セズ命ヲ疑ハシト雖既ニ久能ク神
廟ヲ定ラレシ上ハ彼御山ニ詣テ諷經スル由ヲ

許
黒木尊縁起

神君諱ヲ御等身ノ御壽像ヲ御付テ
御鏡ニテ御面頭ヲ移サレ御丸髪ヲ御壽
像ノ御腹内ニ納メ玉ヒテ御壽像ヲ鏡ノ御影
ニ申奉リ又ハ四十二歳御厄除ク真影凡申奉
也
我誓ニ此木尊ヲ離シ間敷ク百年ノ後ハ本尊
壽像共ニ廟堂ノ地ニ移レルハナトノ 嚴命ニ
テ 神君御他界ノ後御壽像ハ直ニ當山安國殿
頭座ニ玉フ 安國殿始ハ本堂ノ貞後ニ錯構有
一ケルカ寛永十一年 大猷公ノ

御意ニテ御大印ノ 神影ナレハ火災ノ御慎ナ
トテ今九山ノ 御宮ヲ御造營ナシ玉フ
ハ本尊ハ惠心僧都ノ作ニテ其始冬川菜子ノ
明眼寺ニ在テ星霜既ニ振リ金泥ノ光リニ香煙
ニ黒ニシカハ世奉テ黒木尊トハ唱シ也或説ニ
神君御所持ノ木尊三昧御座シケルニ餘ノ二昧
ハ諸佛ニテ此尊ニトリ黒色ニ御座セハ常ニ黒
木尊ト仰ラレシ由是ヨリ木尊ノ嘉名トテ成
又御所持ノ木尊ハ白木尊黒木尊トテ二昧御
座セシハ白木尊ハ今現ニ駿府寶臺院 御宮ノ
本地佛ト成ヌ又黒木尊 當山安國殿ノ木

地佛ト成又比ハ永禄年中 東照神居未夕因
崎ノ城主ニテ御座ニ時參州一向門徒ノ中、逆
意ヲ企ル者有テ一時、蜂起ス其時 神居州郡
ノ強勦ヲ鎮メ玉ハニトテ士卒ヲ催シ彼明眼寺
ノ境内ニ御旗ヲ揚ケセ玉フニ賊徒勢ニ猛ニ
雖雄儀ニ波ニ難ク見ハテルカ 神居ハ草創啓
運ノ御時ヨリ大樹寺ニ於テ淨土ノ安心ヲ究
テセテ彌陀法王ノ神變加持カヲ仰テ玉ニ武
運長久ノ御祐ヲ年久クハ幸ヒ此寺ノ本尊
ニ逆徒和融ノ御祈願ヲ籠ケセ玉フ誠ヤ風ニ草

ノ僞カ如ク程ナク皆、御魔下ニ屬シケル是ヨ
リ弥次本尊ニ御帰依ニシニ、テ類ニ彼寺至
ニ懸望ニ玉ニ遂ニ 御自筆ノ御書ヲ以テ 仰
入ラニ
意ハ之可成院ノ法由ニ成信ノ事ニテハ
御ノ所由ハ此ノ如クハ御ノ意ニ付テテ御書
ノ入ル所ハ此ノ如クハ御ノ意ニ付テテ御書
ノ所由ハ此ノ如クハ御ノ意ニ付テテ御書
ノ所由ハ此ノ如クハ御ノ意ニ付テテ御書
ノ所由ハ此ノ如クハ御ノ意ニ付テテ御書

二月廿二日 家康在御前

の眼守

猶又御願満足ノ御為トテ五十石ノ寺願ヲ寄附
シ玉ヲ寺至ニ至誠ノ御志ヲ感シ終ニ此尊像ヲ
捧ケ奉リ又神后御所持ノ本尊三昧御座シテ
ルニ殊ニ此本尊ヲ渴仰シ玉ニニ世ノ御祈ヲ淺
カラス事ニ其比武田勝頼武勇ヲ争ヒ教度ノ
合戦竟ニ勝利ヲ得ル事能ハス時ニ一ノ奇策ヲ
設ケ我家ノ子ニ器量板群ノ小童馬場春濃守有
カ子常之物
シニ深ク秘計ヲ授ケ偽ラ科アル者ノ真似ノ是
ヲ放逐ス小童穿入ノ身ト成リ遂ニ手引ヲ以テ

御家ニ召出サレ常ニ寢食ニ侍ノ其隙ヲ窺ト
雖片素ヨリ運命天ニ契ヒ玉ハ名將ナレハ中
ニ本意ヲ遂ヘテ方便ナシサレ凡主命ヲ辱シ
メシト百虹日ヲ貫ノ輩ニ龍鬚ヲ摩ニ異ナラ
ス神后ハ夫凡知レメサス常ノ寢所ニ成ラセ
玉ニ屢御枕ニ寄ラセ玉ハ不思議ヤ思本尊御
枕上ニ立セ玉ニ何トテ起居ヲ念佛セサルヲト
御聲アラハカニ呼セ玉ヲニ其儘御仏間ニ成
セラレシトヤカニ御念佛シ玉ヲニ件ノ小童
夫トハ知ス御寢所ニ忍入リ御夜着ノ上ヨリ

ニカマテ刺奉ニ手コタヘノ無ニ驚アハテ
ケルヲ神居ノ御声ニテ嚴シク呵テ玉フ
ノ直爲ノ人ニ馳集リ頓テ小童ヲ搦捕リ御前
ニ列居ケル扱ハイカ成罪科ニ行セ玉フヘキ
ニ却テ御気色洵敷小童ヲ節ヲ守リ死ヲ經ン
ルノ意ヲ賞美シ玉ヒ人ヲノ勝頼ノ方ヘ送り返
リセ玉ヒ又勝頼神居ノ寛仁大度ノ御計ニ
辟易シ更ニ戦争ノ意ニ摧ケ終ニ具身ヲ失シ
ト也其時神居ノ持セ玉ヒハニ連珠數ニテ
三十六顆ノ輪珠散ナリキ世人急仏ノ行者ニハ

除ル不忠議ノ利益有テ佛天ノ擁護空ニカラリ
ル事ヲ信スル而已ナラス此御珠數ヲニ子ニ奉
リ世ニ多玉ヲハヤセシトカヤ今ノ貫珠數ノ
念數是ナリ神居ハ夢感ノ靈驗有シヨリ益汝
尊像ヲ崇敬ニ玉ヒテ遂ニ富天下ヲ持テ威四海
ニ加テ万機ノ御謀ニ吐壻ノ御暇リハ御座ニ
ニカニル御身ニテ課六万遍ノ御念佛ハ一日
ニ懈セ玉フ事無リシトカヤ誠ニ運命爲世
善惡ノ業ニ依テ盛衰指堂ノ間ニ顛ハル事
ナセラス禍ヲ轉ノ福ト成亦童ヲ於キテ移ス

一皆佛神ノ擁護ニ非スト云フ事無シ別テ阿彌陀
院如来ハ超世ノ願至大悲ヲ棟梁ニテ渡セ玉
ハハ苟旦ニモ信仰ノ志アリシ人争ラカ感應ノ
期ナカラシラレヤ去程ニ慶長五年關ヶ原御陣
ノ時ハ常山存應上人ヲ却城ニ召レ十念ヲ受サ
セ玉ノ是先親ノ御嘉例トヲ聞エタ御先祖御代
々因崎ノ却
城ニテ大樹寺ノ和尚ノ十念ヲ受リセ玉ニ若シ
事急ナル時ハ大樹寺ニ向ハセ玉ヒ却十念唱サ
セ玉ヒテ御出馬有シトカテ又武田信玄長坂寸
長淵ニ物語リノ事申陽軍鑑ニ記スル如シ
ハ天下太平却子孫繁榮ノ御祈願トテ松ニ十
八公ノ嘉名アリハ佛ノ十八本願ニ准ラハ關東

十八檀林ヲ御建立ニ此時ニテ思召立セ玉ヒテ
ル比ハ九月朔日既ニ御出馬有テ先ツ常山ニ成
セ玉ヒ御門出ノ御祝儀トテ天上天下唯我獨尊
ノ法問ヲノ命セラレケル是ヤ茅ヲ模ヘテ詩
ヲ賦シ陣ニ對シ琴ヲ彈セシモ敢テ況フハキカ
ハ叔又關ヶ原御凱陣ノ後慶長八年ニ神居ハ
征夷大將軍ニ任セラレ玉ヒ同十年ニ台徳院
殿又征夷大將軍ニ任セラレ玉ヒ同十四年常山
存應和尚ハ普光觀智因師トテ勅許ナシ玉ヒ夫
ヨリ神居ハ江戸ノ御城ノ台徳院殿ニ讓

セ玉^ニ又此本尊ノ^ヲ駿府ハ御隨身トシ注^フ
一 柳井田殿^ノ中奉ルハ當山本堂^{ヨリ}南^ニ當^テ表
鷹ノ御門^{アリ} 神君常ニ鷹ヲ愛シ上^ノ故^ニ鷹
ノ彫物トス^ル 是^レ御本殿^ノ左^ノ右^ノ
壁^ニ書^リ鷹^ノ次^ニ石ノ華表^ヲ建^テ御本殿^ニ志^ス才^ニ
置^クノ席^ヲ敷^テ神鏡ノ影^ヲツ高^ク拜殿^ニ懸^ク口^ヲ
懸^ケ須弥壇上^ニ佛具^ヲ荘^リ本迹一致ノ旨^ヲ頭
シ永^ク天下ノ御子^トハ成^ラセ玉^ニケル^レ
ハ安^國ノニ字^ハ其音^ハ神君御年十九歳ニ成^ラ
セ玉^ニ參^河國大樹寺^ニ於^テ御運^ヲ開^カセ^ラレ
シ御時^ニ付^セ玉^ニシ尊號^{ナリ}是^レ則^チ無量壽經ノ

國豊民安ノ經文ニ依^ラセ玉^ヘリ^レハコ^ク御
本殿^ニ六^十六^疊ノ席^ヲ連^テ子^シハ六^十六^ヶ國ノ
表^シ日本國中^ノ御膝^ノ下^ニ敷^セラ^レ重^キ御子
リトナ^ラセ玉^フコ^ク天下安寧^ニノ兵^ノ乱^ノ憂^ナ
ク三^綱五^常ノ道^盛ニ行^レ佛神ノ威^德嚴^然ト^シ
日月ト共^ニ四^海ヲ照^ラリ^セ玉^フ日本ノ昔^シハ
云^フモサ^ラ也^ハ大唐^ノ天竺^ニニ斯^ル静謐^ノ御代
ハア^ラシ^ニ是^レ偏^ニ神君ノ御遺^德蕩^々ト
ハ萬^代ニ^テ明^ニ此^レヤ^ハ天下誰^ノ人^カ此^レ御
宮^ニマ^カヲ^テ奉^ラリ^テ如^ク之^レ此^レ阿^彌陀^ノ如^來ハ

神后卿在世ノ間造次願師ニモ忘レリ也玉ハス
本尊モ亦隨逐影護シ玉ニケレハ誠ニ以テ御宮
ノ御本地ト仰キ奉レテ也又御本尊ハ坂州
白川江ノ御城ニ移ラセ玉ニ
御尊敬社時ニ異ナラセ玉ハス殊ニ朝ノ御拜信
ノ為トテ御城中ニ佛岡ヲ平川口ニ構ヘリ也
玉ニ又係ル靈像ニ俗躰ノ給仕是ヲ御憚リ有ト
テ天徳寺誓願寺大養寺本誓寺右四ヶ寺ノ住持
ヲ御供養ノ僧ニ足ラセケル其後
御時上意有テ此本尊ハ神后ノ御崇敬深

ク御座レケレハ誠ニ今世ノ事業ナク殊ニ御
○遺命ノ趣ニ任セ廟堂ノ地ニ安置ニ奉レテト
テ當山ノ方丈ニ御遷座成シ玉ヲ然ニ延皇四
年九月廿二日ノ夜方丈大火有シ時此本尊取出
セシ時奇異ノ事共有シトカヤ
○是月先考ノ執事本多上野介正純ハ上野佐野
ノ邑貳萬石ヲ加ヘ賜フ本領野州守都宮共都ヲ五
萬七千石餘ヲ領シ且ツ父佐渡守正信ニ合屬ノ卷
州高橋ノ舊十七騎ヲ以テ正純力共力トシ根表
二百人ヲ以テ徒同心トス此給米都ヲ壹萬三千石

蘇ト云々

○酒井雅樂頭忠世土井大炊頭利勝漸ク東武ニ歸
參ノ節響ニ神后ノ命ニ依テ再々御家人ト成
シ櫻井庄之助勝成リ携ヘ来テ台徳公ニ拜謁ス
ラシメ父ノ舊勲ヲ以テ神后ノ厚キ御誕ノ蒙
ル趣言上ニ及フ所ニ刺テ勝成ヲ書院番ニ列セラル
後年御使
昔ト成ル

五月九

○四日 飯尾左馬助敏宗入道春宗菴長伯享年七
十八歳ニノ賀州ニ卒ス是ハ徳政守信宗ノ子ニシテ

初尾州奥田ノ城主ト云々
長伯カ子左馬助ハ
長沼氏ニ改ム

○越後水将家逐ハノ業ヲ蒙シメ玉フヘキユヘ

若クハ鉾楯ノ正アルヘキ歟ト
台徳公御遠慮ヲ

凝リシ松平半四郎重則
後任内膳正
又改大隅守 近藤石見守秀

用テ上州藤園ノ忠種朝臣ノ旅營ヘ遣リシ先達

テ大相田百ヶ日却吊ノ上ニテ出府シ玉フヘキ

由テ告ラレト雖モ蘇リ違ヒスル間近日其地ヲ發

シ江府浅草ノ別墅迄微行アリテ御下知ヲ待ルヘ

キ昔ヲ違ラレ諸將ニ命シ横川ノ關ヲ警微ア

ノシノ且ツ近國ニ江府躁動ノ事アラハ武陽ノ要

路ヲ守ベシト密ニ計令ヲ施シ玉フ

○十一日 銅錢ノ制令ヲ出シ

一 形方一錢

一 形方一錢

一 形方一錢

右六兩ノ印心 形方一錢 銅錢ノ制令

之實文ノ書實之 一 形方一錢 銅錢ノ制令

此亦若此ノ形方一錢 銅錢ノ制令

仍不違此律 銅錢ノ制令

元和二年六月十一日

○ 爲度中入ノ形方一錢 銅錢ノ制令

一 形方一錢 銅錢ノ制令

一 形方一錢 銅錢ノ制令

一 形方一錢 銅錢ノ制令

一 形方一錢 銅錢ノ制令

一 形方一錢 銅錢ノ制令

元和二年六月十一日

伊丹長之助

秋元思馬子

板倉田村正

松平右衛門守

右近衛馬守

公卿右近衛

酒舟御后

御子御后

右ノ支那ニテ連署ニテ大小名ノ送ルト云々

○晦日 池田出雲守長常 備中守長ノ梨子折烏帽

子形ノ御曹鏡ヲ賜フト云々

○神居御在世ノ時ヨリ封セラル所ノ駿遠五十貳

萬石餘冬議頼宣卿後紀伊候 跡是ヲ領セラル駿府

城ニ在ル所ノ貨財残ル所ナク尾張侯義直卿水

戸候頼房卿ト共ニ配分受用アルノ旨 命セラ

レ本多上野介駿府ニ往テ是ヲ沙汰シ金銀ノ久

能ノ宮庫ニ取ト云々 御遺命ニ依テ瀧川豊前

外孫典惣右衛門直

改テ養子トシテ元和



關 弥平治政 增享年 六六歳ニテ卒ス

